

江藤正澄備忘録

一

680

I

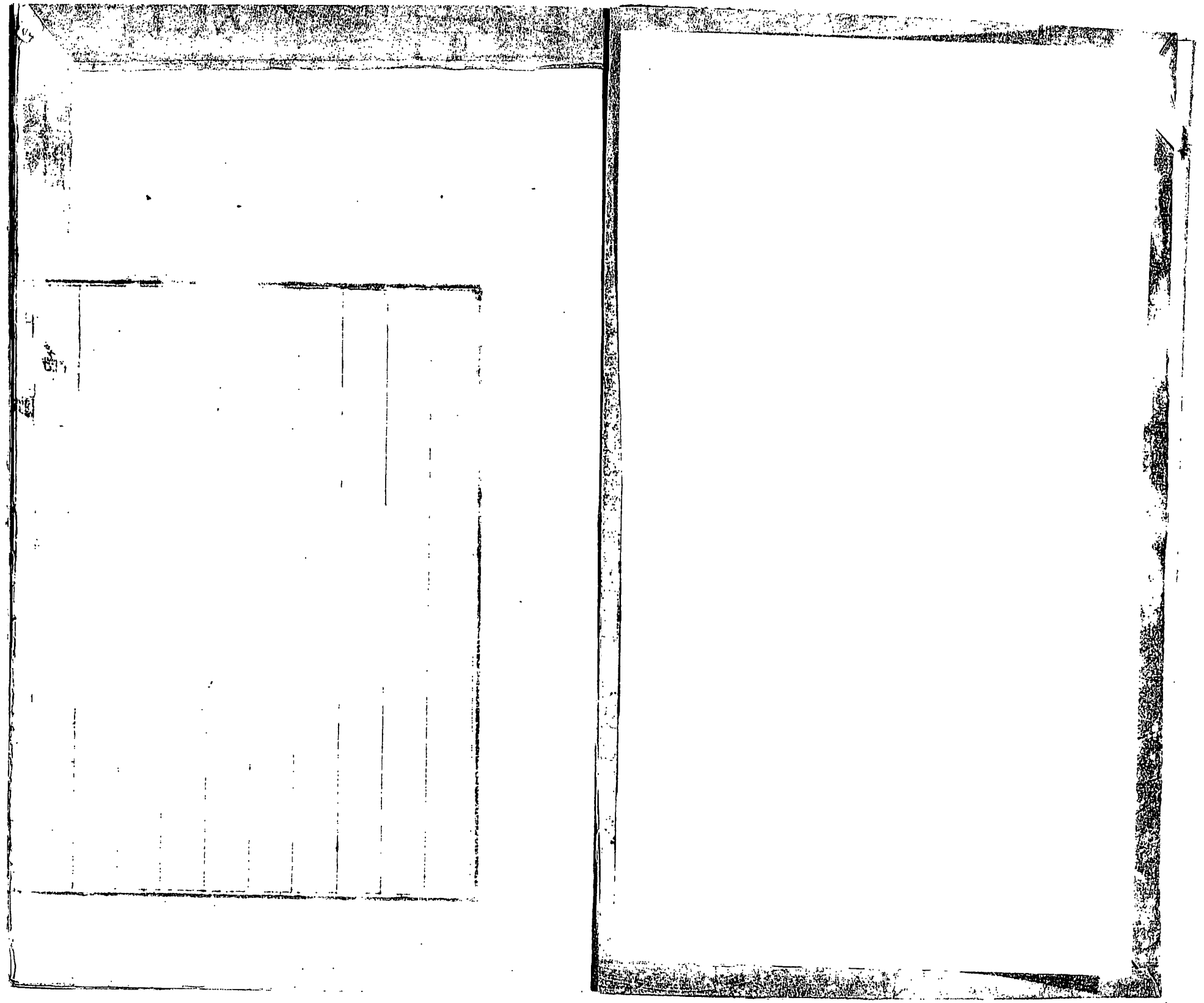
7

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16

0 5 10 15

備忘錄
自明治廿一年一月
至廿二年一月
全

680
工
7





福慶新報 明治三十二年二月廣告表出

一 普通内藥劑金九元

但更下貼 金三元

一 自宅診療科

初回限 金三十元
初回限 金五十元

一 夜中修時往診科

金五十元以上

一 市外往診科

金五十元

細目定額、各用業医ニ揭示ス

明治三十三年一月 福岡市醫師組合會

三條ノ諸式證書、右前規約ニ基キテ

此際、末王大臣兼電子、著格十二、馬愛、前福慶新報吉井兼

（九折）（九折）（九折）（九折）（九折）（九折）（九折）（九折）（九折）（九折）

（九折）（九折）（九折）（九折）（九折）（九折）（九折）（九折）（九折）（九折）

江藤廣三郎 寄贈

○ 江藤廣三郎 寄贈 二件

信長 白 校印

醫學博士 大森公典

口上

醫學博士 江藤廣三郎

○ 大森公典 寄贈 二件

○ 日本美術協會 寄贈 二件

大森公典 惟中

○ 日本美術協會 寄贈 二件

前田健一郎

○ 日本美術協會 寄贈 二件

福地源一郎

○ 日本美術協會 寄贈 二件

岸 光景

○ 日本美術協會 寄贈 二件

瀨田 真

○ 日本美術協會 寄贈 二件

橋本 雅邦

○ 東京海上火災保險株式會社

○ 東京海上火災保險株式會社

川端玉章

久保田米僊

松下桐湖

伊藤勝見

池田民國

加納夏雄

香川勝廣

海野勝眼

○ 養老保險 檢上 十年留

東京海上火災保險株式會社

本會 養老保險

長谷川 宗信

山崎 實

山崎 實

山崎 實

一年 七月 十日 十日 十日 十日

西村 正太郎

西村 正太郎

西村 正太郎

西村 正太郎

西村 正太郎

明治三十二年二月 日 契約申込 中 中 中 中 中 中

○ 松山神社 坂白 八勝

巨雲石 九十五方

桃青城 坂白 八勝

金不月 契約十年十日
七十年四月十日十日十日十日
三全月十日十日十日十日十日
三全月十日十日十日十日十日

一夫地権手一冊
 上方早抄上
 上田村の事

一夫地権手一冊
 一十段地権手抄書一巻
 一十段地権手抄書一巻
 一十段地権手抄書一巻

一十段地権手抄書一巻
 一十段地権手抄書一巻
 一十段地権手抄書一巻
 一十段地権手抄書一巻

臨川閣 神話
 鳥帽子石
 觀園亭

願柳散
 空兵士
 水澤亭

一十段地権手抄書一巻
 一十段地権手抄書一巻

一十段地権手抄書一巻
 一十段地権手抄書一巻

一十段地権手抄書一巻

一十段地権手抄書一巻
 一十段地権手抄書一巻
 一十段地権手抄書一巻
 一十段地権手抄書一巻

明治三十五年三月廿一日 逓信省認可
明治三十一年五月十四日

九州日報號外

●本縣知事の更迭

(午前九時三分東京發至急電報)

今明日中に左の如く發表せらるべし

廣島縣知事 淺田 德則

任 神奈川縣知事

福岡縣知事 岩村 高俊

任 廣島縣知事

曾我部道夫

任 福岡縣知事

發行兼印刷人 井上 定規
編輯人 森多慶之助
福岡縣福岡市博多中島町六十一番地
九州日報發行所

三子(子)子(子)子(子)

三子(子)子(子)子(子)

三子(子)子(子)子(子)

三子(子)子(子)子(子)

三子(子)子(子)子(子)

三子(子)子(子)子(子)

三子(子)子(子)子(子)

三子(子)子(子)子(子)

三子(子)子(子)子(子)

三子(子)子(子)子(子)

三子(子)子(子)子(子)

三子(子)子(子)子(子)

漢書
○大國寺
○大國寺
○大國寺
○大國寺
○大國寺

○大國寺
○大國寺
○大國寺
○大國寺
○大國寺
○大國寺
○大國寺

天再新印卷之以然

●皇國祭典可用多也

大佛殿石門の浮彫

●職用誌

●宗廟の記

●皇人王國

●大方御城同内之國

●陽春

●大坂城清繁乃斬

●皇居秀心時代の限帳

●前大岡秀吉至三原取子...

●皇居秀心時代の限帳

宇目(日)...

扁額...

秀吉...

...

...

...

...

...

...

...

...

一冊

皇居秀心時代の限帳

前大岡秀吉至三原取子...

大坂城清繁乃斬

陽春

大方御城同内之國

皇人王國

宗廟の記

職用誌

大佛殿石門の浮彫

皇國祭典可用多也

大太辨

...

...

...

○ 筑前國糠部鎮座
五穀守神福智權現

納

一金幣二

正安二九月十九日

標題職名

右只大宮司從位下辰正
可致神納

○ 禁制

右坑郷惣社古於

御社中亂放狼藉之可

賢令侍止早之有違

犯之族之可處嚴科

四可作

曆應二年二月十日

3

○ 筑前國糠部鎮座五穀守神福智權現社
下辰正

上段

右殿 若宮の位

本殿 福地大神 神天御鏡止建候

右殿 福國天皇 石室の本宮易懸清祿

経緯

洞宮本宮若宮若宮

洞宮殿内傳授

本相曾本子馬ノ森

洞宮殿

惣市次子三輪女

二件此字之ハ本ノ位
也ナリ文字ノ類ニ
テモ同下ノハ
也手標ノ位ニ
也

法神没

下神仕

三人

以本宮乃即地宮位名位傳授

之弘之平ノ位ナリ

大方宮

宗元清祿

進上御事行取

及

一四

之也(送)下向可於神行得之例(也)

也

○三印子可謂也 三子平早目也

武尊神鏡初篇一冊 鏡色一冊 一冊

○五柳先生傳

○東坡先生傳

○五柳先生傳

○五柳先生傳

○五柳先生傳

○五柳先生傳

○五柳先生傳

○五柳先生傳

○五柳先生傳

○五柳先生傳

○五柳先生傳

○掛物 一幅

○掛物 一幅

○掛物 一幅

○掛物 一幅

○掛物 一幅

○掛物 一幅

○掛物 一幅

○掛物 一幅

○掛物 一幅

○掛物 一幅

○五柳先生傳

○五柳先生傳

○五柳先生傳

○五柳先生傳

○五柳先生傳

○五柳先生傳

○五柳先生傳

○五柳先生傳

佛の子
吾の
梅の

佛の子

佛の子
吾の
梅の
佛の子
吾の
梅の
佛の子
吾の
梅の

佛の子
吾の
梅の
佛の子
吾の
梅の

佛の子

佛の子
吾の
梅の
佛の子
吾の
梅の
佛の子
吾の
梅の

長瀬 徳生
三浦 宗介
三浦 宗次
長瀬 徳生
三浦 宗次
長瀬 徳生

修了了了了

上野 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次

三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次

古義

三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次
三浦 宗次

多田村

新子 三石

石女 古村 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

石女 古村 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

石女 古村 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

石女 古村 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

石女

石女 古村 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

石女 古村 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

石女 古村 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

石女

石女 古村 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

糖方

八條中野

去今之 屋宇

石女 古村 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

石女 古村 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

石女 古村 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

石女 古村 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

石女

石女 古村 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

石女 古村 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

新入上女
新入上女

○ 三十四年 陸軍部 陸軍省 陸軍中尉 中村 芳三郎 著

軍制
陸軍の兵制
陸軍の兵制

流の兵制の考へ
陸軍の兵制

二の陸軍の編制
陸軍の編制

陸軍の編制
陸軍の編制

陸軍の編制
陸軍の編制

陸軍の編制
陸軍の編制

陸軍の編制
陸軍の編制

○ 信濃の古事記 古事記

古事記
古事記

信濃の古事記
信濃の古事記

相井 小室 田中 堀内 上田

○ 古事記 古事記

古事記
古事記

古事記
古事記

古事記
古事記

○ 古事記

古事記
古事記

女房刺子

元禄二年七月廿三日

女房

○ 此刺子 女房刺子 一板

○ 西州山門刺子 一板

○ 又山門刺子 一板

○ 又山門刺子 一板

○ 又山門刺子 一板

○ 又山門刺子 一板

元禄二年七月廿三日

山本村店新 多分其形也 註

○ 山本村店新 多分其形也 註

○ 山本村店新 多分其形也 註

○ 山本村店新 多分其形也 註

○ 山本村店新 多分其形也 註

○ 山本村店新 多分其形也 註

○ 山本村店新 多分其形也 註

○ 山本村店新 多分其形也 註

○ 山本村店新 多分其形也 註

○ 山本村店新 多分其形也 註

白子位
日可住
後
高石五已

子

○ 今三十五万坪

○ 今三十五万坪

贈位

一昨日東電を以て報遺せし如く

今回贈位せられたる人々は

松崎遊右衛門、鈴木主税、鎌田出雲、山田右衛門、三堀幸助、福田京平、時山直入、梅津孝一、月形洗藏、松村大成

贈正四位

山内兵庫、平井善讓、小南五郎、清淵治之助、望月喜彌太、島村榮吉、田内英吉、小幡孫三郎、村田忠三郎、久松清海、岡本次郎、池内庫太、田所總介、仙澤伊太夫、戸原宇橘、福原乙之進、世良周造、牧野權六郎、兵戸矢四郎、兒玉次郎彦、江村彦之進、本庄清、川田嘉造、淺海安之丞、榎田作太夫、井上唯一、鞍馬寅次郎、池上集之介、所幾之助、戸門前八、建部武彦、松平大貳、山本徳一郎、中井半五郎、長門利三平、岩橋半三郎、大島居理兵衛、風道太、佐倉東雄

贈従四位

岸上弘以下橋本若狭に在る八十一人
贈正五位
寺尾經平以下大谷顯繁に在る三十八人
贈従五位

大
一
カ
ナ
ウ

○ 志多郎本村方子下河内 伏見修部 少内

天秀郎志多郎村大字年物 四十五万坪

日 姫子村方子年物 五十七万坪

○ 伊代八代、向、相移分所領あり 柳上十里半

○ 喜之島公出所領あり 喜之島村大字獅子島

河内 志多郎 伊代八代 喜之島 柳上 獅子島

○ 片劍 四十五万坪

○ 米山 七十五万坪

○ 志多郎本村方子年物 四十五万坪

○ 志多郎本村方子年物 四十五万坪

手紙の書き方
あはれ

○お徳和信

後のことよ

ふらふらの世をもちて春へ一息ちまふ
夏のはるのつゆのさきさきの根をさくら
のしるべーあつたはら

これ、お徳和信の書状にまじりてある

手紙の書き方

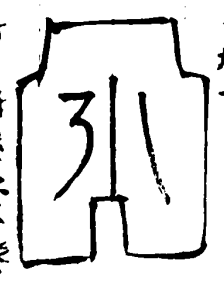
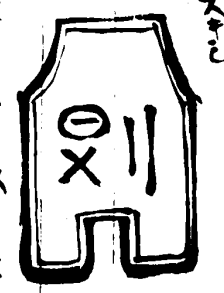
田中 孝子

○三好高七郎の書状にまじりてある

手紙の書き方
お徳和信の書状にまじりてある

一 欽定白銀録

乾隆十五年勅撰全十三卷 共八冊
同書二年刊 總纂大臣 紀昀 陸錫熊 臣 孫士毅
編纂大臣 陸費墀 孫士毅



右二枚法道泉志云 廣台見於宝鼎所 王錢廣然不能名焉 何代也
下界

一 珠鏡奇品圖錄

文化十四年五月刊 全一冊
東印 大村成富 撰

古文銭 手銭 折二銭 大銭 不知銭

厭勝品 奇貨 官産銭

巻末、所有者ノ名ヲ出ス 文政之十年板

一 奇體泉鏡

一 奇鈔百円

三身ノ種ニ希便泉鏡ナリ

契ノ京五ノ七ノ巻也

一冊

浪華 河村朝雄撰
芳川維堅校

前漢錢

新室

唐朝

後漢

後周

北宋

南宋

金國

元朝

明朝

清鈔

安南

鞏口

島

紅毛銀

同銅

背文類

重輪

三光

百星

香錢

朝鮮番錢

折二類

三吉鐵

五吉

十吉

手幣類

表法手

紹符手

瓜哇隆手

皇國手

祥雲手

本邦錢

歷代類

金錢

銀

水戸手

附加迄木類

永利手

陰鏡類

附録

寛永符文

四吉鐵

天明丙午孟春

流石長羽積藏

本目錄ニ如ク

歴代手紙

外口島鐵

符文

聖徳日月 八星 月星

手幣類

表法手 瓜哇隆手 皇國手

日本錢

給錢

寛永符文

四吉 五吉

一版賜品 漢船

琉球口銅錢

◎

手幣四十八寶

早

此錢百文ヲシテ口至ノ封ナラシメ
テ通用ス日本銀一ヲ以テナシ

祥雲手

一新度大錢譜

一冊

寛政三年十月

所著者羽積信

大日月元 福壽双全 五銖 以下 九十種

附二銅錢 三十五種

ノ之部

○貞丈遺書

貞丈遺書 三十一卷 三十一卷 三十一卷

進退記

條々

進退記 條々 三十一卷 三十一卷

遺書 三十六

遺書 三十六 三十一卷 三十一卷

口 三十七

口 三十七 三十一卷 三十一卷

口 三十八

口 三十九

口 四十

口 四十一

口 四十二

口 四十三

口 四十四

口 四十五

口 四十六

口 四十七

口 四十八

口 四十九

口 五十

元服式

婚式

葬式

回春式

回春式

回春式

回春式

回春式

回春式

回春式

回春式

〇五十一
 〇五十二
 〇五十三
 〇五十四
 〇五十五
 〇五十六
 〇五十七
 〇五十八
 〇五十九
 〇六十
 〇六十一
 〇六十二
 〇六十三
 〇六十四
 〇六十五
 〇六十六
 〇六十七
 〇六十八
 〇六十九
 〇七十

〇五十一 〇五十二 〇五十三 〇五十四 〇五十五 〇五十六 〇五十七 〇五十八 〇五十九 〇六十
 〇六十一 〇六十二 〇六十三 〇六十四 〇六十五 〇六十六 〇六十七 〇六十八 〇六十九 〇七十
 〇七十一 〇七十二 〇七十三 〇七十四 〇七十五 〇七十六 〇七十七 〇七十八 〇七十九 〇八十
 〇八十一 〇八十二 〇八十三 〇八十四 〇八十五 〇八十六 〇八十七 〇八十八 〇八十九 〇九十
 〇九十一 〇九十二 〇九十三 〇九十四 〇九十五 〇九十六 〇九十七 〇九十八 〇九十九 〇一百

〇七十八
 〇七十九
 〇八十

〇
 〇七十九 〇八十
 〇八十一 〇八十二
 〇八十三 〇八十四
 〇八十五 〇八十六
 〇八十七 〇八十八
 〇八十九 〇九十
 〇九十一 〇九十二
 〇九十三 〇九十四
 〇九十五 〇九十六
 〇九十七 〇九十八
 〇九十九 〇一百

調度考證

又久三十冊

又書防隨...

分中二十九冊

〇卷之...

〇...

〇...

〇...

〇...

〇...



第初編

才一 日本局以下六部

才二 天書記十部

才三 古今月書以下廿二部

才七 老後日記以下九部

才八 性空上人傳以下三十八部

才九 曹保白鳥集以下六部

才十 惠遠大師念佛述記以下三十一部

第二編

才十一 前大納言云任集以下六十二部

才十二 懷風藻以下四十七部

才十三 歌木弄歌集以下十三部

才十四 古語拾遺以下十二部

才十五 日本書紀略下廿二部

才十六 竹田抄略下六部

才十七 新撰式以下廿一部

才十八 日本書紀略下十六部

才十九 扶桑略記以下十七部

才二十 石抄略記以下十六部

第三編 世二代要記以下十四頁
 正法家文章以下十三頁

同 初編

同 二編目録 一冊

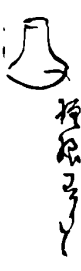
同 三編

正以下史料 數百餘頁

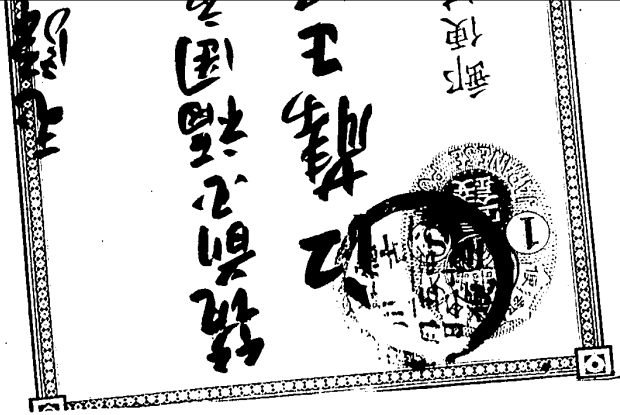
定版の正法家... 正法家文章以下十三頁
 同 初編
 同 二編目録 一冊
 同 三編
 正以下史料 數百餘頁

正法家文章以下十三頁
 同 初編
 同 二編目録 一冊
 同 三編
 正以下史料 數百餘頁

● 新編の正法家文章



正法家文章以下十三頁
 同 初編
 同 二編目録 一冊
 同 三編
 正以下史料 數百餘頁



第三編

世二代要記以下十四頁
正 各家文章以下十三頁

同 初編
同 二編 目錄 一冊
同 三編
正以下資料 數冊 (任為之)

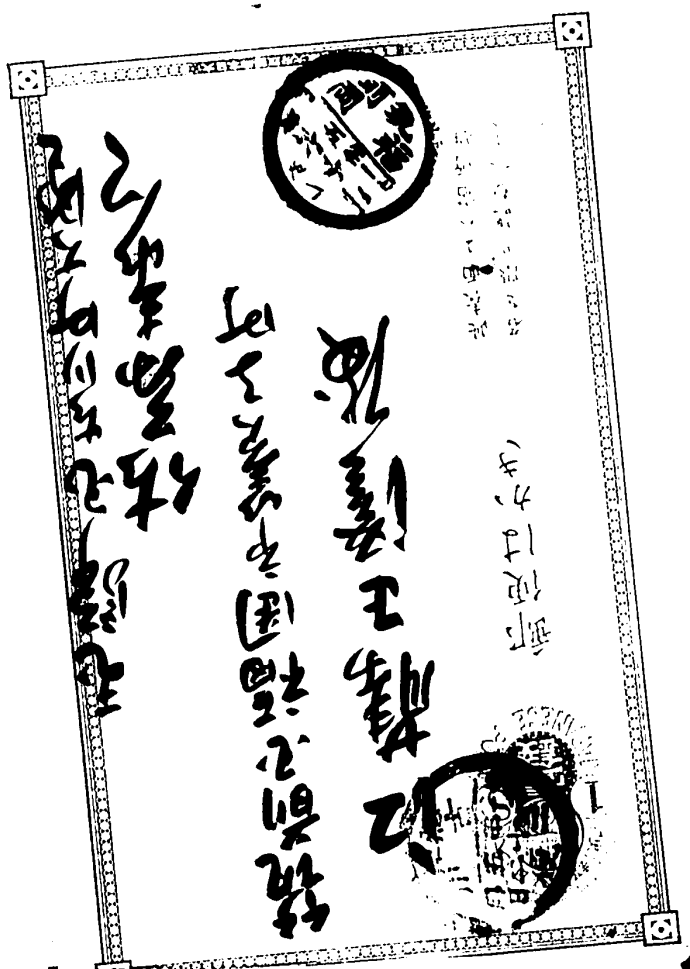
〇 正之平山の平令共一載は源氏物語の抄

正表書多し、各冊一冊出ず
又、同平山の平令共一載は源氏物語の抄
力河原、在成、在成、在成

● 新刊の由之と知下抄草卷



本之河原村の山田の一徳堂に在る古本
再考一冊 出



〇三三平

同 初編
同 二編
同 三編
正三下中

第三編 世二代 正三下中

新刊 左三下中

○ 昭和六年以来 每日發行 社名之

者

或平 中二名 中
 花の 村田 中
 善子 中
 正徳 中
 香波 中
 真白 中

○ 昭和六年以来 每日發行 社名之

共研社	昭和四年	大阪府
以乃社	昭和四年	大阪府
厚生社	昭和四年	大阪府
生々社	昭和四年	大阪府
幸山社	昭和四年	大阪府
古丁身年以	昭和四年	大阪府
秋陽町外	昭和五年	大阪府
戲院老	昭和五年	大阪府
原和信	昭和五年	大阪府
昭和詢	昭和五年	大阪府

○ 以... 皇... 御... 御...

○ 紫雲... 餅... 團喜... 索餅... 銀饅

○ 錫餅... 桂心... 餅... 餛飩子

○ 壬申... 皇... 御... 御...

金壹所藏之

傳書 柳原徑二佐前大納言

藤原資廣

和語出記... 秀元

寶基... 大納言... 藤原資廣

帝... 東山院... 和仁... 貞亨... 元祿... 十六... 二十五年

献上

右天蓋三ツ紐也其大八重面篤

信勿紀アリ

元祿十二年 喜ノ銘

天蓋 有兩氣

右... 皇... 御... 御...

三... 皇... 御... 御...

吾々其の情致と現し得る、現る自らの形を以て
金賞牌

昭和十一年三月十日

東京市長官舎に在りて河津清三郎

氏を以て賞状を授けし事なるを以て

東京市長官舎に在りて河津清三郎氏を以て

○三平の三平の三平の三平

三平の三平の三平

三平

三平の三平

三平の三平

三平の三平

三平の三平

三平の三平

三平の三平の三平

三平の三平

三平の三平

三平の三平

三平の三平

三平の三平

三平の三平

三平の三平

三平の三平

三平の三平

三平

三平の三平

三平の三平

三平の三平

三平の三平

○三平の三平の三平の三平

三平の三平

三平の三平

全千七百五十九回 巳

- 二万七千五百回 未田(鬼)
- 一万七千回 吉田(東山)
- 一万回 吉田(東山)
- 三千五百回 吉田(東山)
- 五百回 吉田(東山)
- 一百五十回 吉田(東山)
- 五十回 吉田(東山)
- 十回 吉田(東山)

- 二万回 子母(大)
- 一万五千回 子母(大)
- 一万回 子母(大)
- 五千回 子母(大)
- 二千回 子母(大)

○上
 一万五千回 子母(大)

- 一万回 子母(大)
- 五千回 子母(大)
- 二千回 子母(大)
- 一千回 子母(大)
- 五百回 子母(大)
- 二百回 子母(大)

○ 三浦半島那志村に於て海軍省の
四石

平子村に於て海軍省の

支那の金庫

増大した

明治三十二年十二月に於て

○ 陸軍省の支那の海軍省

工科 地産地消

法一 青尾 亨之 葉子科 丹波島と云

文一 島力送 葉園宮 根本通明 至本宮

上田五年 一人

理一 博野五中 平出信 山鏡一人

農一 板井時敷 一人

教育科 二人

○ 東京 文科省 文部省 文部省 文部省

三十二年一月廿六日 東京 文部省 文部省

文部省 文部省 文部省 文部省

文部省 文部省 文部省 文部省

文部省 文部省

飲食器具花紙
等

○大入り紙 三行 三行 出

座り通進会陶磁器部 陸生洋

○有田焼 一名 作下里焼 毎日入る 意匠斬新 作り 中 色々 あり 様々

柄紙は 白 青 赤 等 判別 容易 扱 せん

壬子二月

香紙 花紙

女子 吉く

女子 吉く

女子 吉く

女子 吉く

女子 吉く

香紙 花紙

香紙 花紙

香紙 花紙

香紙 花紙

○香紙 花紙 香紙 花紙

○香紙 花紙 香紙 花紙

○香紙 花紙 香紙 花紙

○香紙 花紙 香紙 花紙

○香紙 花紙 香紙 花紙

○香紙 花紙 香紙 花紙

○香紙 花紙 香紙 花紙

○香紙 花紙 香紙 花紙

○香紙 花紙 香紙 花紙

○香紙 花紙 香紙 花紙

○ 菅仲 生多美... 形在... 穂... 穂... 穂...

○ 穂... 昔... 中... 多... 穂... 穂... 穂...

○ 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂...

○ 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂...

○ 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂...

○ 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂...

○ 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂...

○ 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂...

○ 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂...

○ 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂...

○ 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂...

○ 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂...

○ 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂...

○ 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂...

○ 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂...

○ 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂... 穂...

○ 醫學博士 百千六百八名

原市上柳所之醫師七名内

惟神大元教 醫師友夫

元教醫師年終多下

天京郎 此名付印之教

○ 新博士 之三年三月之

五名百名入 此之書

榊山文明 柏田吉日 松山 云未加此名

文字博士二人 林学一人

神又提上之学任清也

医学一 一人 医学一 一人 醫學一 二人

醫學博士之学任清也

医学一 田口卯吉 藤田春一 木下貞吉 江本東 区学

医学一

工学一 岡隆一 山田重夫 手塚嘉次 小大一人

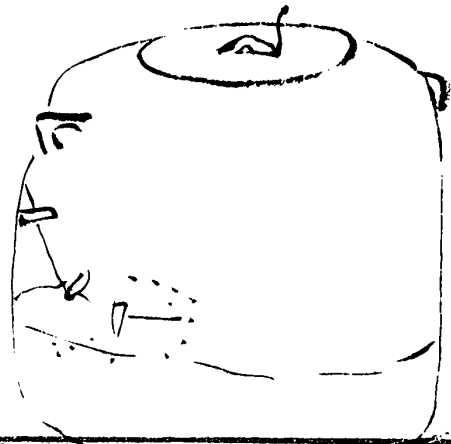
文学一 大隈文夫 之島教 小一人

理学一 一人

市立工学と学任清也

文学一 一人 文学一 一人 文学一 一人 文学一 一人

文学一 一人



豊大岡ノ代地大茶室
二一割方大茶室

○骨董協会雑誌

寄心大茶室の推挙による
 信子、寺尾亭、山久、匠屋、丹波屋、山久、
 工部、中野ゆき、中村直平、お久、久子、物部、
 上田、平山、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
 山久、山久、山久、山久、山久、山久、

○骨董協会雑誌
 寄心大茶室の推挙による
 信子、寺尾亭、山久、匠屋、丹波屋、山久、
 工部、中野ゆき、中村直平、お久、久子、物部、
 上田、平山、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
 山久、山久、山久、山久、山久、山久、

尾久物部 比良物部 尾山、山久、山久、山久、
 松作、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
 山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、

○三越改入脚川 鎌倉明月庵竹芸
 漆名、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
 山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、

○百五河回轉 下巻、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
 山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、

○長門寺校部 山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
 山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、

○煮水本男 山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
 山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、

○五眼板一切 山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
 山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、

山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、



- 三越改入脚川 鎌倉明月庵竹芸
漆名、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
- 百五河回轉 下巻、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
- 長門寺校部 山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
- 煮水本男 山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
- 五眼板一切 山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、
山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、山久、

○丁代大佛師譜

子三冊

丁代大佛師譜

上下三巻佛工名多し付後と指く春高指織りし一編本
一上巻のりの中下巻のり三巻のり

大佛師三巻同 佛工三巻同 佛師三巻同 大佛師三巻同

佛工三巻同の撰取訂正佛師三巻同の撰取訂正

のり三巻同のり三巻同のり

○兼業編撰

兼業編撰のり三巻同のり三巻同のり

のり三巻同のり三巻同のり

のり三巻同のり三巻同のり

のり三巻同のり三巻同のり

上下三巻

右三巻編撰三巻のり三巻同のり

内裏編撰三巻(兼業)

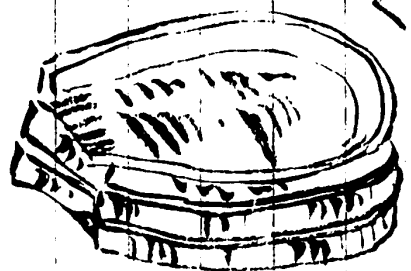
兼業編撰のり三巻同のり

兼業編撰のり三巻同のり

十一

十二

十三



丁代大佛師譜

早、千利久の伊豆幸(ア)

○表紙ニ糸巻竹の下平細 十丁候を裁き、三上二個と下平河

五丁を裁き、一尺四寸、今も御心(ア)

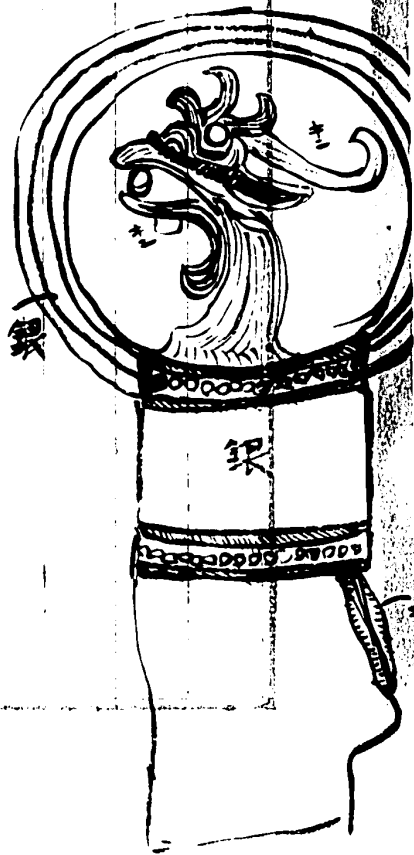


○享二年寅月十日卯時生れ、又物持
一年七月廿二日卯時生れ、又物持

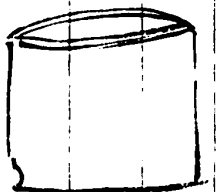
内(銀幣金一) 羽根三付、木印、木角、大陰、玉、得、入、ト云
大陰、同、角、生、入、ト云、誤

○金三両五十五貫

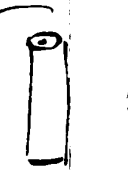
左刀頭
大井筒



○金二両五十五貫



水精六角玉 大小 十一個



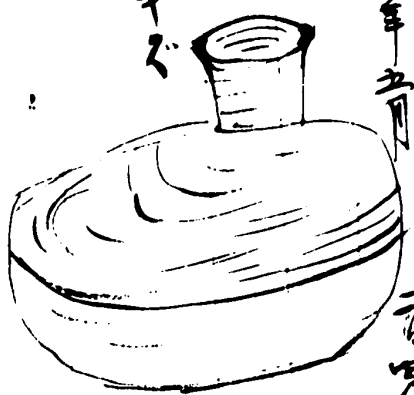
出雲玉 七個 内二個サ鉄
銀 長短

ノ五内七十貫



西子印、那沙印、片、純、村、下、静、々、委、任、之
以、爲、年、月

--	--	--	--	--	--	--	--



無事

○三幸青

言及 山幸丸

價十二

○早田即飯屋山上江城了堀出又尾経 青柳林考りて進物

○古同品

二十三年
三丁

山本代郎少史

全九支

其他圖書制本二千六

○

起業製法全書

正篇二冊

本
大日本經濟學社發行

序 平吉美代組三頭取 明治廿年丁未四月

著者下

植休會科 金倉神 勸休 日本 家什 針具

紙尺 漆

信備針 筆 石 扇 取 燈 時辰 鐘 時辰 鏢

大正

大日本經濟學社

正千八百八支

○金剛石

付金剛石。走。加里什里尼金剛

○紅寶石

青寶石。藍寶石。

○翡翠

○碧石

○綠玉

○夜明珠

○貓眼石

○加爾溫里安

付薩爾度白瑪瑙。薩爾度內萊斯

○加默珂

○黑玉

○鑲工

○金色鋼

○珊瑚 付 紅珊瑚 黑玉

下同各

○三十二年四月十日五時可修利元更

○五底



田一ツ 飯方面にある

○十盛一ツ 飯方面にある

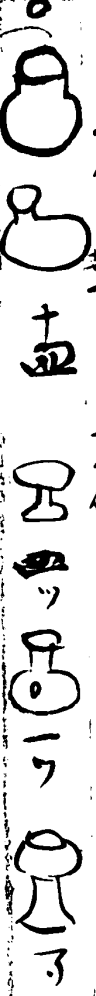


中



○三盛一ツ 飯方面にある 大瓶、大壺

○蓋取分一ツ 飯方面にある



飯方面の北側

メ元

メ十

メ十

メ十

メ十

メ十

メ十

御守御守 御守御守
 美多分 十 御守御守
 美多分 十 御守御守
 美多分 十 御守御守



御守御守

美多分 十 御守御守
 美多分 十 御守御守
 美多分 十 御守御守

美多分 十 御守御守
 美多分 十 御守御守
 美多分 十 御守御守

美多分 十 御守御守
 美多分 十 御守御守
 美多分 十 御守御守

○三十二年四月

美多分 十 御守御守

美多分 十 御守御守
 美多分 十 御守御守
 美多分 十 御守御守

七ツ

カツ

廿四

十二

四ツ

一ツ

古くは... 古くは...

中院通古印... 中院通古印...

九條尚実... 九條尚実...

柳宗元... 柳宗元...

弟通口

真成口

伊光口

光祖口

詩 綱忠口

詩 益良口

為璞口

若谷乃... 若谷乃...

依京... 依京...

依京... 依京...

依京... 依京...

世長口

公母口

古の... 古の...

古の... 古の...

古の... 古の...

古の... 古の...

大曲甲... 大曲甲...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

子... 子...

八景塔傳

厚東家元祖物部氏人皇三十六代皇極天皇二年癸卯位
展門國厚樫郡棚井庄依子号厚東十三代大夫武仲為
蟹供粮埋八萬塔除弟民愁十七代越後守義武延
文三年戊戌正月二日霜降塔落去

○ 大雷弁

大雷弁の事は古事記にあり

東國の
秀雅多角
西國の
持女多角

○

子及即子公乃古字姓方古原中々石棟、
潤る事多し、
一之り大寺、
西國、
古事記にあり

三十二年五月六日

○陸軍の諸給與増額
陸軍の増給決定 法制部に於て急々決定せる
陸軍將校の増給額は官等階級を台せて少尉三
十圓、中尉二等給三十六圓一等給四十五圓、大尉
三等給六十圓一等給七十圓にしては他職務俸
の中に特別俸の制を置き乙俸八十圓甲俸九十圓と
定めたり、特別俸なるものは重に職務、軍醫、
軍吏部、憲兵部等の非戦部將校にして職務將校に
對し比較的身進の困難なる各官の獎勵の爲め
に多年勤勞の秀才を授けし其名の如く在職中
特別に支給するものなりと
△營外居住下の増給 軍吏部書記、軍醫、看護
護長及び旅團本部、司令部、聯隊司令部及び
諸學校、諸官衙門勤務にして營外居住の下の對
し一般に二圓五十錢を増給することに決定せり
△軍隊 附料の改正 物品購買の結果軍隊炊
の困難を以て増給の者あるを以て早晚、附料
を改正して従來の最高額七錢二厘、最低額五錢一厘
を増額し甲額七錢八厘、乙額六錢九厘、丙額六錢
三厘、丁額六錢、戊額五錢四厘と定め各衛戍地の
市場物價に準じて適宜右額定額に準じて夫々決定

○刑の執行延期
現行の刑罰法に據れば其
性質として善良なる人も一朝或るの挑に於て毆打
創傷等の罪を犯し禁錮の刑に處せらるるも禁錮の
不完全なる爲め別房に容るゝ能はざる結果勢ひ懲
罰に感染され亦治す可からざるは現今の眞況なる
が斯の如きは、罪則たる改過遷善の旨に反
するものなれば其罪質の輕微にして性質善良なる
初犯の如きは單に刑、宣告を爲すに止め是を放免
し置き其の刑、間に再犯の形跡なき以上は其
處之を免除し若し又刑期間に犯罪ある時は更に
前刑を加へ重きに從つて處断する如くせば性質善
良なる人物を損ふ憂ひ無く能く刑罰の目的を達し
得べし今日連日假出獄の制無きに非ざるも此制
の刑罰の四分の一を經過したるものに非ざれば單
行する能はざるを以て以上述べたる如き弊害を救済
するに足らず夫の自耳の如きは茲に鑑みる所
りてか既に七年前より法を發行し佛蘭西の如き
も實行以て五年を經過せる程も我が國にても是に
倣ひて假出獄の制の外更に刑の執行を延期し又は
全く免除するに至らば治罪に偉大なる効力あらん
との事にて目下起草中なる刑事訴訟法中には多分

○十種不評合考書

評多形 一年三回編考あり

一 井上善助 中井善助

二 白木三郎 榎田清吉

三 徳尾正一郎 山本六次郎 石田橋次郎

四 的野平 横井清吉 高橋七重

五 三浦正太郎 三浦正太郎

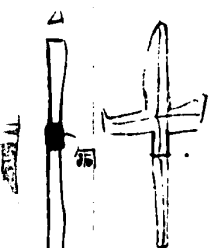
六 三浦正太郎 三浦正太郎

七 三浦正太郎 三浦正太郎

八 三浦正太郎 三浦正太郎

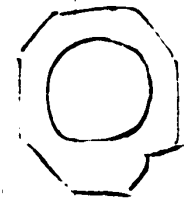
九 三浦正太郎 三浦正太郎

十 三浦正太郎 三浦正太郎



十種不評合考書 各書の内容は相違なく、其の長短は、各書の内容に依りて異なる。其の長短は、各書の内容に依りて異なる。其の長短は、各書の内容に依りて異なる。

十原寺
天和寺
...



○

...
...
...

...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

○筑後三井郡高良山神龍石

高良山神龍石の事に就ては平日の太紙上に於て載る所ありしも道同其神龍石の地に於り三谷有信其地を踏し同山の畧圖に詳細の記事を附せられたるは既に掲載する事なきを以て

明治三十二年六月二日 三谷有信 誌す

筑後三井郡高良山神龍石記

一高良山に巨石を連環せしものあり是を龍石と稱す何の頃より此名は起りけん詳ならず社僧ありし頃は是を八葉石と名づけ其寺を蓮臺と稱せしは該石に因てし名稱なりと云東西凡そ一町南北六町ありて其廣大なる事知るべし該石は山嶺溪谷の隈ひなく並列せり至石列一段にして二重に

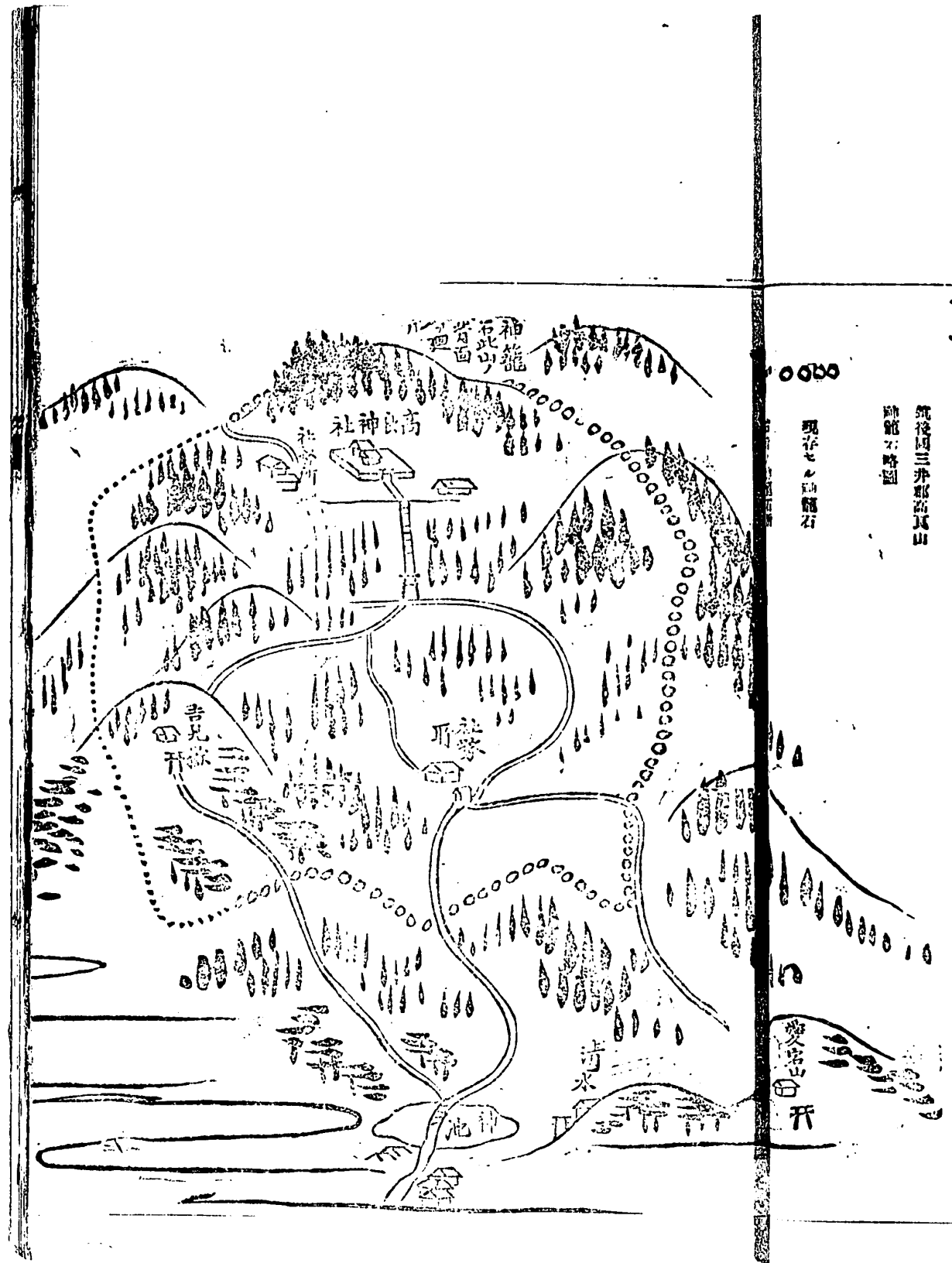
一該石跡に二説あり一は漢紫の磐井が要害を構へし地なりと云ひ(山麓磐井と稱する地名ありて磐井ノ居りし所なるは疑なかるべし)又一は代々の山陵とも云ふ然るに該石は要害の如何に備はらず山より谷にわたり並列せしものにて峻峻峻峻に城壁を築きしものにあらずして境界の區域を設けしもの如きは實地踏査せし人の疑はざる處なり傳説眞に近からん果して後説の通りとせば古史に徴し實地を探り古蹟をして同確ならしむる其官民共に附すべからざるの事ならずや

一該石東南西の三方多くは現存すれども北一方はを以て他の三方を推測する時は其全形は吉見嶺の北を廻り神社後面の該石と連続せしと思はるゝ山脈東南西は多くは岩質なるも北は土質なり故に年代の久しき漸次崩れ落ち土深く埋没せしにはあらざるか或は北山平野に接し大河近く運搬に便なるを以て後世築城又は他の用に持ち去りしにはあらざるか(八女郡峰筋の石人など田中氏嶋島城の石垣に用ひし土思ひ合すべし)恐らく此の二説に外ならず尚ほ研究すべきこと

一該石は性質々ありと雖も同山中の石に於て此の多数の巨石を何方より持ち來りしか怪訝に堪へず稀々温石あり同石は高良内村に産す然れば同山と接近せる所より石材を得たりしならんか未其出處詳ならず尚ほ探究すべきことなり一此の聯環せる石を断々掘削し持去りたる跡も少なからず同山中に墓石有るに同石質のものるは該石を便せしや疑なし現今池の傍らに巨石あり是は近頃村民等が戦後の紀念碑の爲めに運搬せしものなり其傍らに六七町の山路を距り逆極樂寺と稱する處の正傍らに搬せし者なり百一二十人を役し二日間を費し搬せし者なり此の一石を格別遠からざる地に移すに如く人力を要す況んや遠隔の地より富山の頂に迄此數百千の巨石を運搬せし土工はいかばかりの役夫を要しけん其勢力の尋常ならざる事を思ふべし余は帝王の山陵にも周圍の如斯然たるものありを聞かざるなり

一該土工は各方面より一時に起工せしならんこと則學員は云へり傳説せり双刀より巨石と稱べりて其機ぎは密接せる所と思はれ石の小口を以て接続補綴せし所あり其此信するに足れり

一神龍の後阜は圓形似て西南に向へる山なり龍石もこのより起れり且某官云ふこの山は高良川右岸の如き平片なる許多の石ありと故に曳矢野頭翁も此の高阜こそ山陵ならめと云はれたり又近き渡瀬果が同山一半以て社僧の傍らに築き玉を拾ひ得たりしとぞ其邊は神龍石中央の地なるを以て或は此邊に山陵の存せしや圖るべからざるの説ありと雖も今は何所には其と覺しき地なし然れども富山は僧寂源山と開き道を通じ寺を建て家屋を作りしにより古來の地勢變更せしもの多かるべければ今日を以て其の當否を確定しがたし爾し神龍の後山山形方位等の陵墓に類せるもの現存せるを以て考ふれば二翁の説は近きか如し其筋に於て誠を派し尚研究ありたり者なり一該石は僧寂源山より土中を發掘して發見せしと傳説あり是は佛家例の別異に托せし虛妄の言にして信するに足らずと雖も同僧の機敏なる早く該石あるを探知し土中埋没せしもの多かりしを掘せしは其遠なかるべし今日に於ては神龍山に於て北の該石の見へざる所以を探り或は山陵の舊否等を究め又は荆棘を除き該石に沿ひ一小



筑後三井郡高良山神籠石畧圖
 高良山神籠石の形に就ては前号久留米市三谷有信氏の紹介により掲載する所ありしが同時に畧圖を
 寄られたれども彫刻の間に合はず本日此に掲載することなしぬ(前号記事と對照して閱覽ある
 べし)

徑々此の奇蹟を湖のほとりに見せしめ且考證
 家の踏査に使ならしめん事を以て今日の寂寥たる
 果して誰ぞや
 一帯は舊藩政の頃には頗る賑はし且林竹石の保
 殿なりしに維新後地は狭少となり如斯き山
 わりし古跡すら官地又は民地に編入せられたり因
 て該有の如きこれを崩壊するも管轄なきが如く
 其の持去るに任ずると云ふも不可なしかくして數
 年を経過せば或は稀世の古蹟も滅絶せんも知るべ
 からずこの古蹟は三井郡の所有にあらす又筑後國

の國有にもあらず天下の奇蹟なり言はれても速
 にこれが保存の方法を設けられたし況んや山陵と
 も思はるゝ古蹟なるに於てをや

○

骨董雜誌

第一號

明治三十四年四月五日發行

書画 古銭 古器

古具 古物

金銀 奇石 圖書

華器 香具 樂器

花紙 繪畫 遺物

雜品

○ 鈔三三作

明治信家

堀忠明壽

山城信見金家

○ 火澁布

○ 十二公モニダ

仙卷春

小島信吉 龜尾 雪浪 等



上州高崎 向井其雨 古銅平内

○ 鐵如意

山本助也

京 園口光雲 之 悦

所愛者有罪也 所憎者有以必貴

○ 世尊寺家之奉

陽正行成

行誥 行丹

○ 九尺画表四哲

木下遠雲 志花 鐵石 帆星 吉雨 平野 五岳

○ 明珠十家作

宗政 宗清 宗行 宗益 宗重

宗太 宗繩 宗亮 宗政 宗安

○ 同後三件

高義 兼通 信家

○ 盆裁考

廣井時久

画 春 以 十 三 年 圖

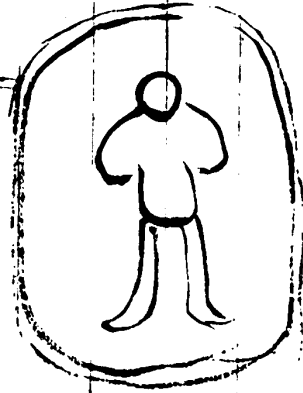
法苑之類 一 圖

○ 踏画考

鈴木弘春

全判 工 考 已

寛政十一年 天保九年 一 考





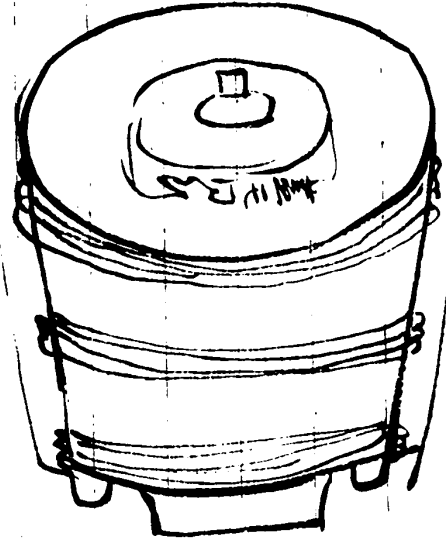
△分三

三子年五日月廿五日

千鳥香爐

帝室御物

松平頼朝
より
贈り



阿比留子叶4日

○大藏経事

教部有兼文

大御所... 世に其書數時入りしに...

東寺宣陽門北亭傳 宗版

佛恩院寺通經年一日上 在福別院之寺後 八十年卷う欠ク

源清法師毛書類同上 元祐改す内宗ニ改ス

東福寺大字本 今散布ス 様以之を寺に給及令教授ス

醍醐三皇代 後美防宣氏宗國ゆ本 出入らる

善因法金剛代 北宗版 善吉州 福寺利持本四十五百年帖

聖本ナリシカ明法寺公坐那帝皇ニ 宗版元子以里傳り

柳屋高山寺ハ此宗版ナリカ宗版ノ大衆ニヨリテ中陸也ス

東本願寺未畑 瑞雲寺 南三本ノ下ニ在ナリ

南福寺 妙心寺 宗版アリト聞テ未見ナリ

此經建仁寺ニシテ蘇我何氏撰テ古本ナリト云フ天保年乃傳傳
ノ大佛ノ僅ニ三石ナリト云フ

本經ノ明版ナリ

又雄勝漢寺後白河氏ノ所創金剛金法ノ如多分
出二抄卷一ノカ一ノ本ナリシカレ傳中ノ如シテ全テ
持ノ今基ニシテ遺ス

石清水ニ同上ノ如シテ社人之ヲ撰テ全テ心要ナリ

大徳寺ハ古字ノ集經ナリシテ金ノ寺也ニ云ヒ云ク黃野殿

九五ニテ月光殿ハ一ノア三ニテ又時バヨリ卷數傳傳ナリ

其 五十四卷 隨六言九十八卷

唐五十四卷 明本 同五十三卷 貞天本

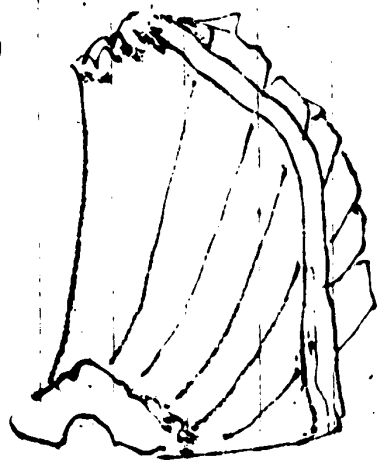
宋六言十八卷 同六言十八卷

元六言十八卷 明本七十一卷

朝鮮二百四十五卷 是經の言二十三卷

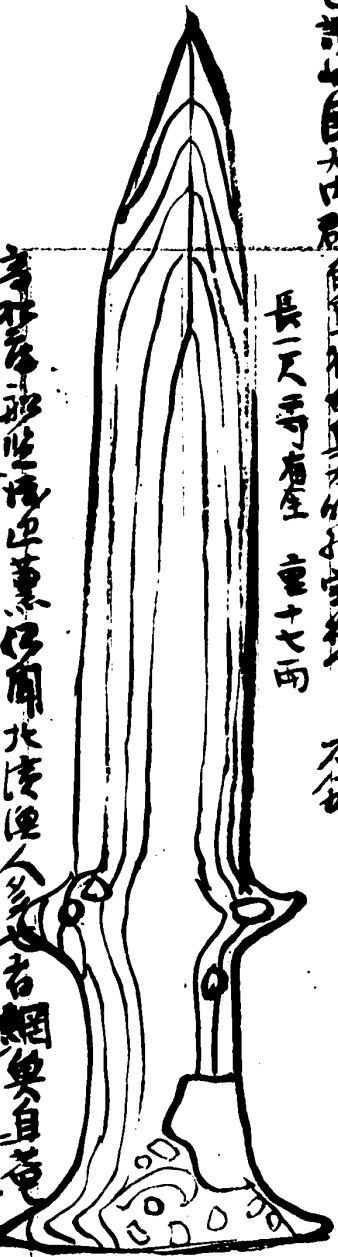
黃屋六言七十一卷 明版 註利

此經天保十六年乃撰之由云云撰者何人云云云云
考下ノ如ノ同卷ナリシニ成云云ニ云ヒ云云云云
所ハ勅旨ニ云ヒ一四抄ニ云ヒ云云云云大衆傳ニ云ヒ
十八卷ニ云ヒ云云云云
分付之云云云云云云云云云云



鶴尾丸
大木匠作子乾

○ 鎌倉國大田郡西馬河本會國之松竹等物一石銀
長二尺寸許重三兩十六丁可



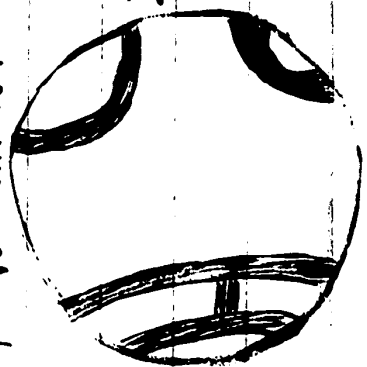
○ 本邦產此物中兼信州大津邊人多也者類與自草
位到青島海上幸細得石銀一石以爲非尋常之品價較他
草佳之好十月朔 外又與之

○ 鎌倉國名

○ 鎌倉國二階郡

○ 鎌倉國大子邊方用

○ 大子邊方用



○ 鎌倉國鎌ヶ江ヶ
石銀六兩一

○ 本邦產此物上佳

○ 刀工上佳

○ 明津產此物

○ 本邦產此物下佳

○ 本邦產此物

○ 本邦產此物

二作之條 杉葉舟 竹地之條

一番之條 圓形四角 即舞袖

上層條子 膝掛舟 古板舟

巨舟條子 杉葉舟 杉地之條

杉葉舟 杉葉舟 田山益幸 竹葉舟

○ 本邦產此物

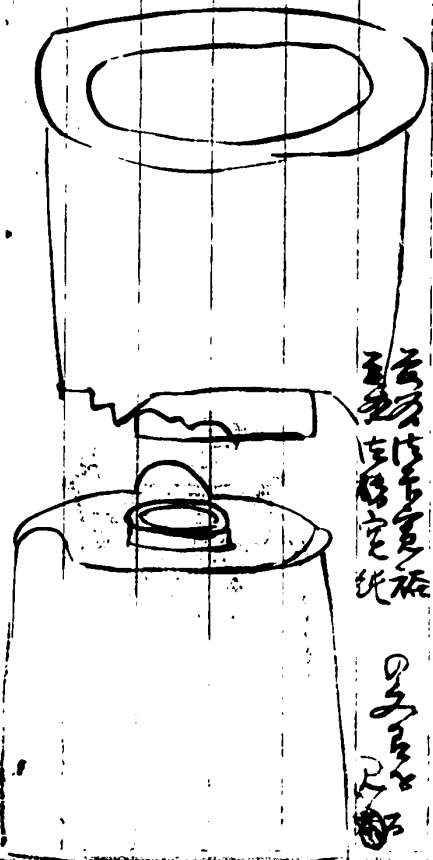
聖臣秀芳諸君文稱四年春
 平八郎上三右衛門守家等所為陸運
 多引て止す久々夫六所外にて
 二所を捕りて送るべく之を捕
 其毎毒く同致二十人計と傳
 下と云ふ可き書送し山

○豊後国三好郡三好郷
 三好重隆公の御代に於て
 三好重隆公の御代に於て

三好重隆公の御代に於て

○三好重隆

三好重隆公の御代に於て



三好重隆公の御代に於て

○新川以十之祖 用治之祖初以治之 治之祖一治之祖

治之祖一治之祖

治之祖一治之祖

○後鳥羽天皇御代治之祖

治之祖一治之祖

治之祖一治之祖

治之祖一治之祖

治之祖一治之祖

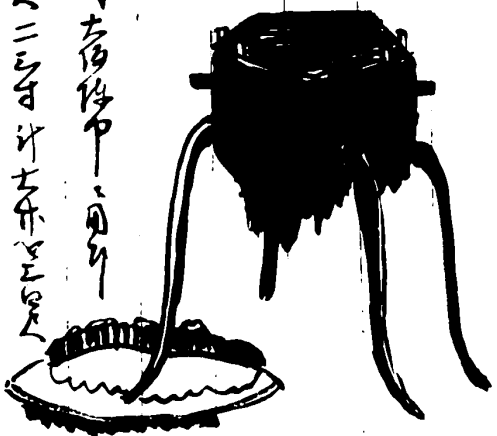
○三好重隆公の御代

○三好重隆公の御代

三好重隆公の御代に於て

いせのうら
丹波のうら
早稲のうら

三輪の釜



竹石 前谷氏の末代もまゝの古物也
釜の底に「三輪」の字あり
此の釜は古くは「三輪」の釜といふなり
此の釜は古くは「三輪」の釜といふなり
此の釜は古くは「三輪」の釜といふなり
此の釜は古くは「三輪」の釜といふなり

四輪

明徳の御用

明徳の御用

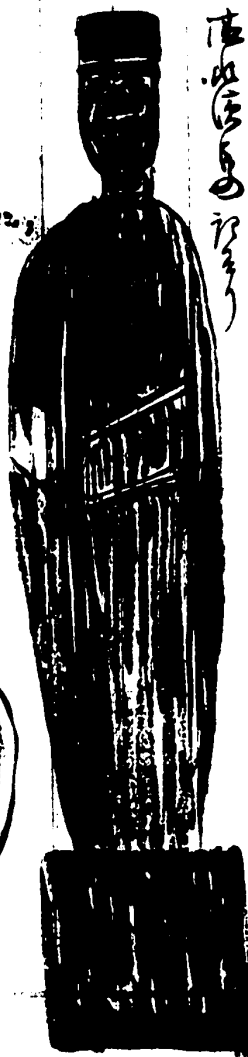
明徳の御用



蔵書記

此の釜は古くは「四輪」の釜といふなり

古銅下ノ類



備中吉備津彥命

丁方字以子ノ鏡形髣髴ニテ

所記ノ事ニテハ古銅下ノ類

ニシテ



古銅下ノ類 備前口銅幣ノ形ニ似テ口徑八口由加八口徑ニシテ

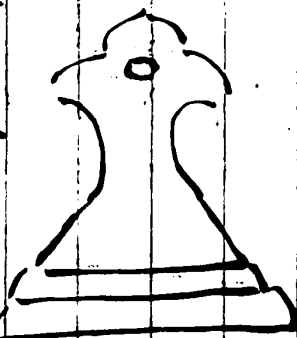
口ノ大徑六口由加五口徑ニシテ口所記ノ事ニテハ古銅下ノ類

平野重三郎

口鏡上下 髣髴ニシテ古銅下ノ類

不致遠毎ニ年呈進

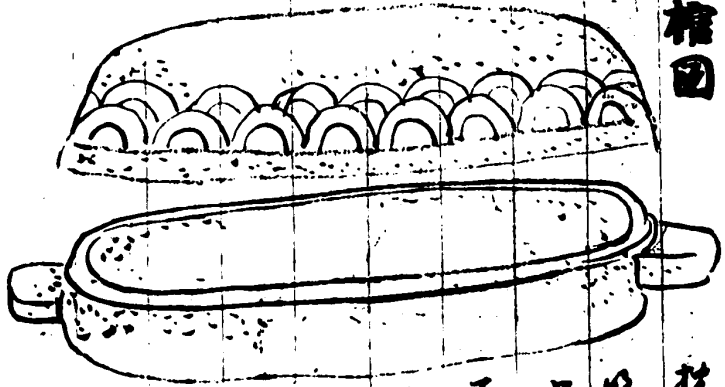
古銅下ノ類 信濃長谷村谷下



備前口銅幣ノ形ニ似テ口徑八口由加八口徑ニシテ口ノ大徑六口由加五口徑ニシテ口所記ノ事ニテハ古銅下ノ類

本権田

新前足羽山上下



枝蓋は文ヲ彫ル

此の器は平安朝の末に藤井平の西平
 日南のトシハハニテ造られたる。此の
 器はもとより山の上の^{山の上}に
 ありて^{ありて}中ニ汁を
 取壊せり。鏡ニテ^{鏡ニテ}皆形ありの
 ぬき^{ぬき}あり。珠の^{珠の}形を^{形を}て^て徑
 三ト^{三ト}徑^徑の^の形^形を
 珠の^{珠の}

ヲ新^{ヲ新}と^とカ^カ子^子布^布ニ^ニ指^指ル^ル。隋^隋朱^朱登^登平^平ノ^ノ陶^陶設^設ニ^ニ云^云。隨^隨何^何相^相傳^傳テ^テ此^此珠^珠

此器は淡ラハ^{淡ラハ}斤^斤上^上古^古玻璃^{玻璃}椀^椀ナ^ナ

離ノ色ニ十種有テ視レハ^{離ノ色ニ十種有テ視レハ}琉璃^{琉璃}玻璃^{玻璃}本^本一^一種^種ナ^ナラ^ラ後^後世^世ニ^ニ至^至リ^リ紺^紺青^青色^色

ノ^ノ心^心ヲ^ヲ行^行シ^シ甚^甚ク^クス^ス。ト^ト強^強ク^クス^ス。ト^ト而^而テ^テ北^北魏^魏守^守既^既ニ^ニ甚^甚ク^ク

浮^浮ラ^ラ侍^侍リ^リ北^北魏^魏大^大臣^臣即^即位^位ニ^ニ年^年ハ^ハ古^古ク^クス^ス。ト^ト其^其器^器ニ^ニ至^至リ^リ我^我

邦^邦民^民ハ^ハ郡^郡ニ^ニ移^移ル^ル。ト^ト相^相傳^傳テ^テ直^直徒^徒ト^ト言^言フ^フ。ト^ト其^其器^器ニ^ニ至^至リ^リ我^我

時^時西^西域^域ノ^ノ人^人ハ^ハ此^此器^器ニ^ニ至^至リ^リ我^我邦^邦ノ^ノ人^人ハ^ハ其^其器^器ニ^ニ至^至リ^リ我^我

其^其器^器ニ^ニ至^至リ^リ我^我邦^邦ノ^ノ人^人ハ^ハ其^其器^器ニ^ニ至^至リ^リ我^我

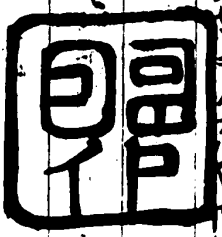
其^其器^器ニ^ニ至^至リ^リ我^我邦^邦ノ^ノ人^人ハ^ハ其^其器^器ニ^ニ至^至リ^リ我^我

其^其器^器ニ^ニ至^至リ^リ我^我邦^邦ノ^ノ人^人ハ^ハ其^其器^器ニ^ニ至^至リ^リ我^我

其^其器^器ニ^ニ至^至リ^リ我^我邦^邦ノ^ノ人^人ハ^ハ其^其器^器ニ^ニ至^至リ^リ我^我

其^其器^器ニ^ニ至^至リ^リ我^我邦^邦ノ^ノ人^人ハ^ハ其^其器^器ニ^ニ至^至リ^リ我^我

其^其器^器ニ^ニ至^至リ^リ我^我邦^邦ノ^ノ人^人ハ^ハ其^其器^器ニ^ニ至^至リ^リ我^我



明印
 西暦ノ
 號

信長の子の、陸助 年

信長の子の、陸助 年

信長の子の、陸助 年

信長の子の、陸助 年

信長の子の、陸助 年

信長の子の、陸助 年

信長の子の、陸助 年

信長の子の、陸助 年

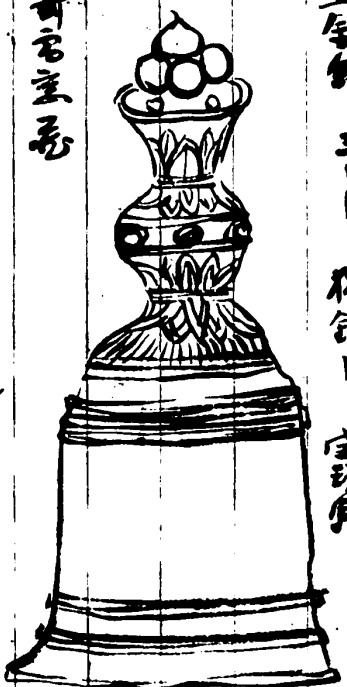
信長の子の、陸助 年

信長の子の、陸助 年

信長の子の、陸助 年

五徳伝

五徳伝 三ノ、偶伝、由珠院



十段新宮主忌

八のあつた、信長を物、大坂の多き、なす、

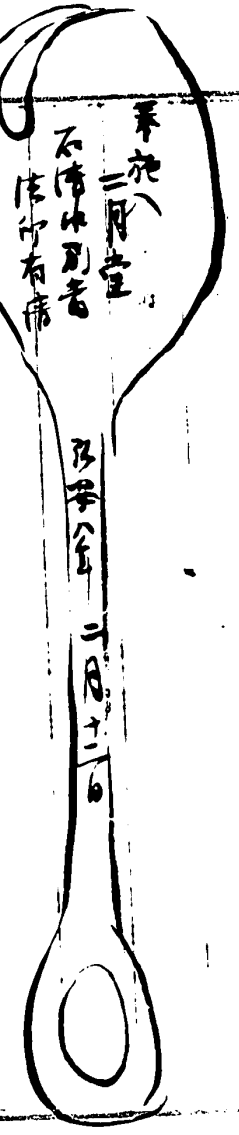
中宮の寺、金巻を、権下の三徳の、信、人、の、

信長を、信長、六、人、と、甲、の、と、実、七、個、長、三、年、ク、三、人、の、

信長を、信長、六、人、と、甲、の、と、実、七、個、長、三、年、ク、三、人、の、

信長の子の、陸助 年

周利若丹・飯分用三ノ原ノ種印シ
 種分東若丹ノ四記中
 三ノ原ノ三任たりをたよりぬる
 元若丹ノ手無若ノ今ノ字ノ種分ノ家ノ種分ノ二ノ一ノ七ノ氣



二月堂
 不情休別者
 注可有情
 才五條

用基勝管全條
 官政ノ事百十九ノ四ノ字を以てしる事也



大下

鏡ノ事如左件ノ口ノ映して及番子ノ相也
 東ノ原ノ種分ノ四ノ記印種分ノ丹分也なり
 色ノ角種化之用ノ鏡ノ事ノ一ノ人ノ有之ノ方也
 紀若丹ノ上ノ便ノ飯分也



書用の海

飯中江大隆

桂類の木像

伊豆木三徳屋

伊豆に数多の丸形の木像を造りて山に立寄る本をのやま像

此の木像を丸形に造りて山に立寄る本をのやま像

神代書一上平大徳

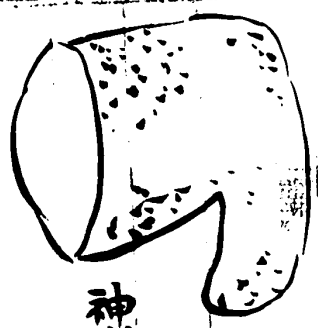
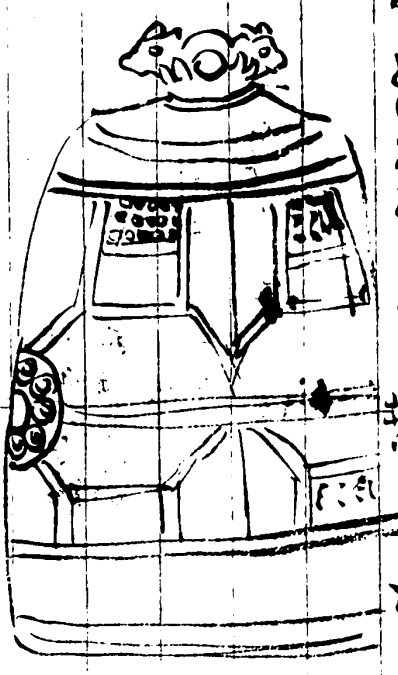
此の木像を丸形に造りて山に立寄る本をのやま像

高三及寺

高三及寺

高三及寺

高三及寺



神代書

大國書

伊豆に数多の丸形の木像を造りて山に立寄る本をのやま像

此の木像を丸形に造りて山に立寄る本をのやま像

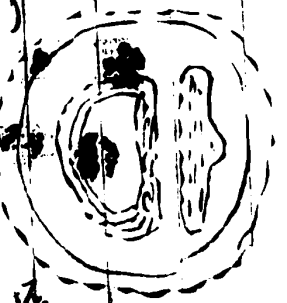
六丹書

伊豆朝月

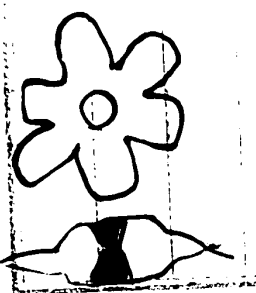
方書

方書

方書



伊豆朝月



伊豆朝月



4x32

手と下を以て相抄りて思ふ事多し
昔の如く此言は

握り佛 釈尊は名を那山めは在六十谷村新蔵山大同寺
此の如く佛意あり是是たやも山とくは居地此の如



自ら此の如く抄り里の如く一西果公の如く大目録
とある事ありて入里大目録下乃至三十三卷に

此の如く抄りて是は

京物左刀有作

國は名を

手抄りて之を中作すり来り後丁十二

語は

昔の如く此言は思ふ事多し
九年和名深澤を此の如く思ふ事多し
此の如く抄りて是は

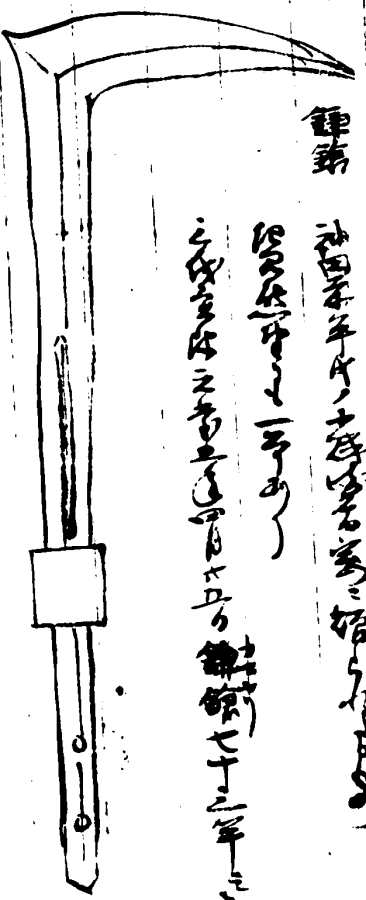
飯柳子寺
神護國寺
手抄りて

手抄りて是は

○青蓮社(青蓮社)

鐘表 社田平年(十三年) 始(一三三〇)

〇延暦二年(一三三〇) 鐘表(一三三〇)



〇延暦二年(一三三〇)

老木(一三三〇) 延暦二年



延暦二年 十一

○初行(仁王)

改行(一三三〇)

〇延暦二年(一三三〇) 初行(仁王) 延暦二年(一三三〇) 延暦二年(一三三〇)

〇延暦二年(一三三〇) 延暦二年(一三三〇)

○本朝(佛)

正朝 延暦 快慶 延慶

○假面(十)

日光 延慶 延慶 延慶 延慶 延慶

日光 延慶 延慶 延慶 延慶 延慶

青蓮社(一三三〇) 延慶(一三三〇) 延慶(一三三〇)

延享五年一月廿日

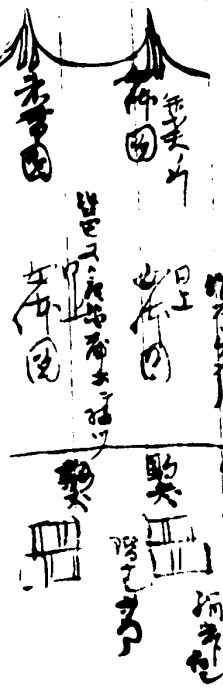
○金賦抄

全再... 延享五年

御所... 延享五年

○延享五年二月廿日

御所



延享五年二月廿日

士政 南 延享五年

延享五年

○延享五年六月二十日

延享五年六月二十日

延享五年六月二十日... 延享五年六月二十日... 延享五年六月二十日...

延享五年六月二十日... 延享五年六月二十日...

延享五年六月二十日... 延享五年六月二十日...

五回
五回
口

○ 年上日三十一。平村氏年経七十。海行寺。地
○ 年上日三十一。平村氏年経七十。海行寺。地
○ 年上日三十一。平村氏年経七十。海行寺。地
○ 年上日三十一。平村氏年経七十。海行寺。地
○ 年上日三十一。平村氏年経七十。海行寺。地

五回

辛丑歲蒲月弟子范壽

焚香拜寫

○ 年上日三十一。平村氏年経七十。海行寺。地
○ 年上日三十一。平村氏年経七十。海行寺。地
○ 年上日三十一。平村氏年経七十。海行寺。地
○ 年上日三十一。平村氏年経七十。海行寺。地
○ 年上日三十一。平村氏年経七十。海行寺。地

○ 年上日三十一。平村氏年経七十。海行寺。地
○ 年上日三十一。平村氏年経七十。海行寺。地
○ 年上日三十一。平村氏年経七十。海行寺。地
○ 年上日三十一。平村氏年経七十。海行寺。地
○ 年上日三十一。平村氏年経七十。海行寺。地

中略者

○高利貸の取締

○高利貸取締法案 既に東地によりて報せし如く、岡野寛氏外、數名より聯合提出せし同案は左の如く、未嘗有の高利貸征伐、之によりて多年の願望をなさんとするもの多かるべし、阿々

第一條 凡そ個人の處置切迫に乘り、貸付又は債權の強制期に於て、債務者、債權者との契約上の利息と額面との差、或る増加額を受け取り又は他人をして受けらしむる者、何等の罰を問はず、之れを高利とす。

前項の増加額を自己又は他人に宛て債權證明書若しくは其他如何なる物件名目に掲げし、之れを受け取りたる者、又同じ。

第二條 凡そ他人の貸付に仲立を爲する者、其名の如何に拘はらず、實際債權と債務とを混同の金品を自己に受け取り又は他者をして受けらしむる者、之れを高利貸と看做す。

第三條 第一條を犯したる者は、一ヶ年以下の重監禁に處し、十圓以上千圓以下の罰金を附加す。

但し其得たる増加額は、本人へ還付す。

第四條 第二條を犯したる者は、前條の刑に一等又は二等を減す。但し其得たる増加額及物件は本人に還付す。

第五條 他人情を充つて第一條第二條に犯し、財物權を自己に獲得したる者は、前條の例に依る。

○高利貸の取締

案

第六條 高利貸を常業として営むる者は、三ヶ年以下の重監禁に處し、百圓以上二萬圓以下の罰金を附加し、仍ほ三ヶ年以下の監禁に處す。

第七條 凡そ債權者にして債權を管領するに、力り公然の強制若しくは、後端を用ひたる者は、之れを高利貸の如きものと見做し、千圓以下の罰金に處す。

第八條 本條に何れも犯したる者は、一日は二十四時間、一ヶ月は三十日、一ヶ年は附に處するものとす。若し之を犯したる者は、千圓以下の罰金に處す。

第九條 本條に左の各罪を犯す者、
一 帝國又は各府支那州村若しくは公證せられたる社團の公債を發行す。
二 民法に規定する貸付。
三 民法に規定する社債各種の發行及別行爲。
四 貸付債權者、同業組合の規程に依り貸付に對する貸出しの制限。

第十條 本條に犯し處する刑は、政刑、罰金及び再犯の重の例に依る。

第十一條 本條に犯し處したる者は、第一審裁判官の在の地方官廳に送附し、之れを管下の慈善事業の資金の内へ下附せしむ。

第十二條 本法は明治三十三年二月一日より施行す。

○高利貸取締法案

○高利貸取締法案 既に東地によりて報せし如く、岡野寛氏外、數名より聯合提出せし同案は左の如く、未嘗有の高利貸征伐、之によりて多年の願望をなさんとするもの多かるべし、阿々

第一條 凡そ個人の處置切迫に乘り、貸付又は債權の強制期に於て、債務者、債權者との契約上の利息と額面との差、或る増加額を受け取り又は他人をして受けらしむる者、何等の罰を問はず、之れを高利とす。

前項の増加額を自己又は他人に宛て債權證明書若しくは其他如何なる物件名目に掲げし、之れを受け取りたる者、又同じ。

第二條 凡そ他人の貸付に仲立を爲する者、其名の如何に拘はらず、實際債權と債務とを混同の金品を自己に受け取り又は他者をして受けらしむる者、之れを高利貸と看做す。

第三條 第一條を犯したる者は、一ヶ年以下の重監禁に處し、十圓以上千圓以下の罰金を附加す。

但し其得たる増加額は、本人へ還付す。

第四條 第二條を犯したる者は、前條の刑に一等又は二等を減す。但し其得たる増加額及物件は本人に還付す。

第五條 他人情を充つて第一條第二條に犯し、財物權を自己に獲得したる者は、前條の例に依る。

〇 新編 〇 新編
新編 〇 新編
新編 〇 新編
新編 〇 新編
新編 〇 新編
新編 〇 新編
新編 〇 新編
新編 〇 新編
新編 〇 新編
新編 〇 新編

〇 資治通鑑綱目全書正編

明史官陳仁錫詳覈

朱 〇 德島府 〇 卷一 〇 卷二 〇 卷三 〇 卷四 〇 卷五 〇 卷六 〇 卷七 〇 卷八 〇 卷九 〇 卷十 〇 卷十一 〇 卷十二 〇 卷十三 〇 卷十四 〇 卷十五 〇 卷十六 〇 卷十七 〇 卷十八 〇 卷十九 〇 卷二十 〇 卷二十一 〇 卷二十二 〇 卷二十三 〇 卷二十四 〇 卷二十五 〇 卷二十六 〇 卷二十七 〇 卷二十八 〇 卷二十九 〇 卷三十 〇 卷三十一 〇 卷三十二 〇 卷三十三 〇 卷三十四 〇 卷三十五 〇 卷三十六 〇 卷三十七 〇 卷三十八 〇 卷三十九 〇 卷四十 〇 卷四十一 〇 卷四十二 〇 卷四十三 〇 卷四十四 〇 卷四十五 〇 卷四十六 〇 卷四十七 〇 卷四十八 〇 卷四十九 〇 卷五十 〇 卷五十一 〇 卷五十二 〇 卷五十三 〇 卷五十四 〇 卷五十五 〇 卷五十六 〇 卷五十七 〇 卷五十八 〇 卷五十九 〇 卷六十 〇 卷六十一 〇 卷六十二 〇 卷六十三 〇 卷六十四 〇 卷六十五 〇 卷六十六 〇 卷六十七 〇 卷六十八 〇 卷六十九 〇 卷七十 〇 卷七十一 〇 卷七十二 〇 卷七十三 〇 卷七十四 〇 卷七十五 〇 卷七十六 〇 卷七十七 〇 卷七十八 〇 卷七十九 〇 卷八十 〇 卷八十一 〇 卷八十二 〇 卷八十三 〇 卷八十四 〇 卷八十五 〇 卷八十六 〇 卷八十七 〇 卷八十八 〇 卷八十九 〇 卷九十 〇 卷九十一 〇 卷九十二 〇 卷九十三 〇 卷九十四 〇 卷九十五 〇 卷九十六 〇 卷九十七 〇 卷九十八 〇 卷九十九 〇 卷一百

資治通鑑綱目全書正編

同上

御撰資治通鑑綱目全書正編
卷一 卷二 卷三 卷四 卷五 卷六 卷七 卷八 卷九 卷十 卷十一 卷十二 卷十三 卷十四 卷十五 卷十六 卷十七 卷十八 卷十九 卷二十 卷二十一 卷二十二 卷二十三 卷二十四 卷二十五 卷二十六 卷二十七 卷二十八 卷二十九 卷三十 卷三十一 卷三十二 卷三十三 卷三十四 卷三十五 卷三十六 卷三十七 卷三十八 卷三十九 卷四十 卷四十一 卷四十二 卷四十三 卷四十四 卷四十五 卷四十六 卷四十七 卷四十八 卷四十九 卷五十 卷五十一 卷五十二 卷五十三 卷五十四 卷五十五 卷五十六 卷五十七 卷五十八 卷五十九 卷六十 卷六十一 卷六十二 卷六十三 卷六十四 卷六十五 卷六十六 卷六十七 卷六十八 卷六十九 卷七十 卷七十一 卷七十二 卷七十三 卷七十四 卷七十五 卷七十六 卷七十七 卷七十八 卷七十九 卷八十 卷八十一 卷八十二 卷八十三 卷八十四 卷八十五 卷八十六 卷八十七 卷八十八 卷八十九 卷九十 卷九十一 卷九十二 卷九十三 卷九十四 卷九十五 卷九十六 卷九十七 卷九十八 卷九十九 卷一百

三卷ノ終

通鑑綱目本有二版俱罹戊申京城之災是以
通鑑綱目之世學者病焉朕 公用而恤之
使臣希哲就其餘燼補刊之六年訖工於是
三宅氏校卒復其舊矣今附明紀綱目於其
末以奉 公之意云

文化六年己巳冬 阿波國儒會増田希哲識

徳嶋府學務版

宋印徳府蔵本

小村四郎

河原

本徳府蔵本

惣考
百種七種

○ 徳嶋府。移令甲子廿一子 子

海國要

本年十一月廿五。二才四八号ノ何
云自舟中如 船中ノ件 似地
川ノ件 二才四八号ノ何ノ地
ハ 似地ノ地ノ地ノ地ノ地

○ 徳嶋府學務版

○ 辛酉年十月一日

崇寧通鑑 神 二才四八号ノ何

二才四八号ノ何 神 二才四八号ノ何

日本銀行
 支店
 東京
 大田区
 大田

日本銀行
 支店
 東京
 大田区
 大田

日本銀行
 支店
 東京
 大田区
 大田

日本銀行
 支店
 東京
 大田区
 大田

上野原の山

山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。

○江藤原の山。昔は山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。

明治十年甲子の日

○山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。

山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。

山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。

○美守の駅。行田あり。

船体の音。毎時あり。

山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。

一三三三五六七八九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。

山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。

山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。

山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。昔は山頂に石塔あり。

壬午年 中歲 春 下
古柳 新 法
白柳 新 中 坊
中白柳 正 坊

中以柳 森田
白柳 新 下 坊
白柳 新 中 坊
白柳 新 下 坊
白柳 新 中 坊

日年 中歲 春 下
生柳 下 坊
白柳 新 中 坊
女柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊

白柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊

日年 中歲 春 下

白柳 新 中 坊

古柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊

白柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊
白柳 新 中 坊

明治卅三年九月後備忘錄

第 七 卷

第七

○
東主は...
は...
...

...

...

○遺言一覽 明治年間にて刺客又は暴漢の爲に被害され又は負傷したるもの左の如し

被害年月日	被害者	加害者
明治二年一月五日	横井 小仙(教)	川上在典の徒
同 二年九月二日	大村征次郎(教)	同上
同 四年一月九日	廣瀬 眞四郎(教)	同上
同 七年一月十四日	岩倉 具親(教)	同上
同 九年十月二十四日	種山 政明(教)	高市熊太郎等
同 十一年五月十四日	大久保利通(教)	大野誠中等
同 十六年八月同	板垣 退助(教)	島田一藤等
同 廿二年二月十一日	森 有司(教)	相原 尚俊
同 廿四年五月十四日	大隈 重信(教)	西野文太郎
同 廿五年五月十一日	藤岡 幸徳(教)	米島 和孝
同 廿七年五月十一日	井上角五郎(教)	津田 三郎
同 廿八年三月廿四日	島田 三郎(教)	社士
同 廿九年七月廿九日	李 鴻章(公使)	島田 六之助
同 卅二年六月廿一日	文 天(公使)	社士

の...
と...
の...
...
...
...
...

...

本館指合校乙部四六號
 十月十日 成二部四一九號 皇朝御社美空直社縣社
 西ノ 提出ノ好格 皇朝御社美空直社縣社
 三 〇
 三

10

御社美空直社縣社
 乙部四六號
 十月十日 成二部四一九號
 皇朝御社美空直社縣社
 西ノ 提出ノ好格 皇朝御社美空直社縣社
 三 〇
 三

西國要務令々頭
 皇朝御社美空直社縣社

乙部四六號
 十月十日

片心林田村の村々

木下村の村々

三ノ宮村の村々

四ノ宮村の村々

五ノ宮村の村々

井上村の村々

味那尾山の村々

天竺の村々

後世の村々

山ノ頭

二ノ宮

三ノ宮

新成園

任内閣總理大臣

外務大臣

内務大臣

逓信大臣

農商務大臣

林有造

Vertical text on the left side of the page, including names and dates.

Vertical text on the right side of the page, including names and dates.

一 文刀太一

松田百久

五十五

一 司法一

男一

金子堅吉郎

五十七

一 大藏一

子一

渡辺國正

五十三

一 内閣書記官長

鯉島武心助

○ 三十二年十月廿日 皇太子殿下

御講義

仁御殿三三蒙明以于年八月廿日

皇太子御立の大御事奉也之今度九夜御巡遊本月廿日御講義御隨行員

東宮史便所 中山孝賢

前官長 内務省 黒田久孝

侍講

本石豊親

山内 西富和昇

侍從

川柳平吉

平家徳次郎

侍從

丸尾錦作

銀守精次郎

布馬純文

片山芳林

伊勢鑑五郎 其他刺任官六名

○ 在列古法...

国言解...

三十二年二月二十三日

皇太子御立の大御事奉也之今度九夜御巡遊本月廿日御講義御隨行員

皇太子御立の大御事奉也之今度九夜御巡遊本月廿日御講義御隨行員

○ 皇太子御立

皇太子御立

皇太子御立の大御事奉也之今度九夜御巡遊本月廿日御講義御隨行員

皇太子御立の大御事奉也之今度九夜御巡遊本月廿日御講義御隨行員

皇太子御立の大御事奉也之今度九夜御巡遊本月廿日御講義御隨行員

○圖書開題 自芥志部

十三字

凡例 林羅山日本書籍考 を最初 寺島宗意の倭版書籍考 中村富泉

の 并藏書目録 屋崎雅嘉の群書一覽 村田富泉の漢軍書要覽

村山徳淳の 博物師書目解題 村田峯次郎 長岡書書解題目録 又専門的

の 物 之 書 目 解 題 村田峯次郎 長岡書書解題目録 又専門的

清規の 国史系の 採 呂秀三の 富士山 の 日本 書籍考 了り 高字本 之 西

村山徳淳の 漢草之 庫書目解題略 中村清規 帝大 大学 圖書 致書籍解題

伴直方 の 物 記 書目備考 戸田氏行 回言 信 中 里 仲 村 村 量 之 等 の 編 纂

了り 記 録 解 題 等 其 最 多 の 一 し 之 外 尚 十 數 種 の 多 き を 就 録 書

解題 乃 ハ 群 書 一 覽 九 七 之 外 ハ 亦 有 リ キ

馬 山 云 ハ 書 目 定 備 す へ く 添 へ り 最 モ 其 外 ハ 亦 有 リ キ 書目脱漏也 即 九 七

掲 げ 遺 漏 を 補 ふ 事 と い ふ も 可 し 也

一 本朝書籍目録 一名仁和寺書目 大正 記 業 志 三 三 年 刊 一 冊

二 増益書籍目録 一冊 五冊

三 近代名家著述目六 年 埋 朔 凡 著 十 年 五 冊

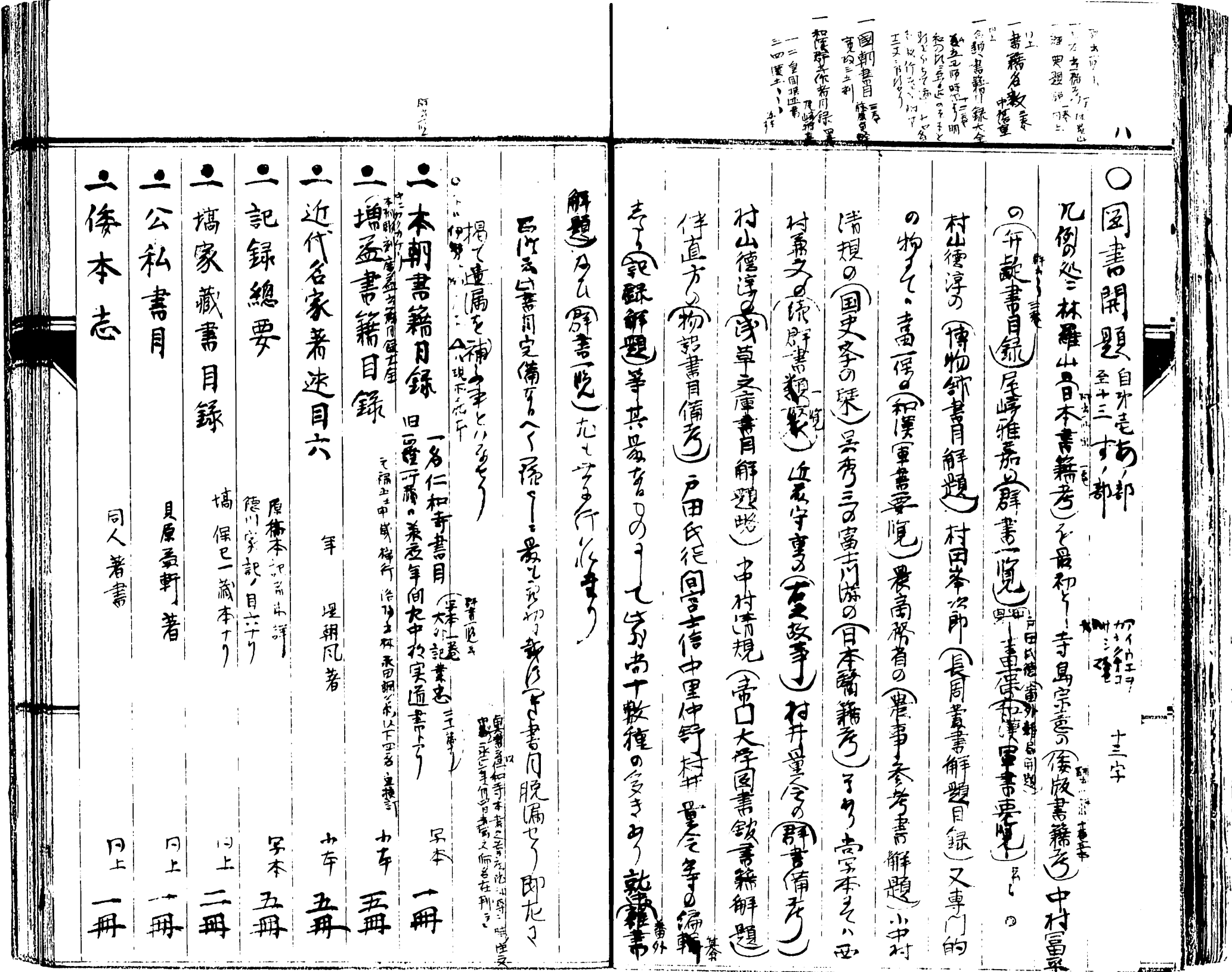
四 記録總要 原 稿 本 詳 徳川 家 記 目 六 十 七 年 五 冊

五 塙家藏書目録 塙 保 巳 一 歳 本 十 冊

六 公私書目 貝 原 孟 軒 著 十 冊

七 倭本志 同 人 著 書 十 冊

一 國朝書目 三 冊
一 和漢書目 三 冊
一 書籍名目 三 冊
一 合編書籍目録 三 冊
一 五七師時 三 冊
一 和の以 三 冊
一 三三三 三 冊
一 三五 三 冊



一 聖堂藏書目錄

諸國部

一冊

一 伊勢安孫平田篤胤足代弘刻著述目錄

同上

一 續群書類聚目錄

楠保己一著

同上

一 平田篤胤著述目錄

同上

一 編輯地誌備用典籍解題總目錄

源高年著

同上

一 本朝画図只月

扶本ナリ

一冊

一 浙江採集遺書總錄

唐本 四條崎小竹藏本

八冊

一 欽定四庫總目

乾隆本 魏刻

六冊

一 讀書敏求記

清雍正六年錢曾遺著

寫本 二冊

一 正齋書籍考

經書部 近藤守重著

三冊

一 唐本類書考

古撰新撰傳載又 平井山田三郎著

三冊

一 古刻書跋

近藤守重要原信元合著

一冊

一 繪卷月録

伴直方輯記 文政十一年九月日

一冊

一 新刻書目便覽

大田嘉五郎編輯 明治三年四月

一冊

一 版権書目

内務省編 自明治十年十月至同九年五月

一冊

一 和板書籍考

著者未詳 元禄年間刻

三冊

一 泉閣書集

影字 三十五年三月

一 金馬火銀名母

白氏文集

無住而守 無勢而熟

錢冲海

一 無經千里

朱正學注 龍氏二行 内務省編輯

〇下
陳籍ナリ

△〇〇

〇

一 齋止戸名之國師市治後年月可謂也

高麗高麗甘美道報命

日為主并昭子昭後一任 年月可謂也

押來甲國中指命

多津由公人江江 七位 七位 七位

平即為大和國師之送子我孫子國圖第一封の事乎年十月六日

皇太子殿西國師金部一人入有少人年一子 皇太子殿西國師

皇太子殿西國師金部一人入有少人年一子 皇太子殿西國師

皇太子殿西國師金部一人入有少人年一子 皇太子殿西國師

皇太子殿西國師金部一人入有少人年一子 皇太子殿西國師

皇太子殿西國師金部一人入有少人年一子 皇太子殿西國師

工

其國圖兼中日師

弘冠氏

弘冠氏

大體

子

日本紀 三十一 孝德天皇 大化二年夏四月丁巳朔壬午詔曰惟神

惟神者謂隨神道 我子應治事是以與天地之初 君臨之國也

亦自有神道也

作水のり 藤澤元 藤澤一六 平林善介

永平の古歌 藤澤善隆 藤澤一六 佐藤信和

藤澤の古歌 藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

上田の古歌 藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

新田の古歌 藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

社団法人 藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

英人 藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

神武天皇 藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

石上 藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

神武天皇 藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

藤澤善隆 藤澤一六 藤澤信和

口下標榜のなるなる用は、
美 多々上と云ふは、

日よしのく、
改

改

跋 昔日野中尚書賢朝の勤王の旨を傳へ島嶼に賦毒鐘而示國難其
止化也手は信筆信口祈は母國福其字極小而蔽は通美有法多し竹是若美
俊之人其心必精而細也今現平野國臣以奉而履信英俊則精細矣國臣古安
政同併信感愧之餘漢罪其蕭幽鬱鬱行也尊攘二念往來於夢寐之間
其不能於此致筆而揮之幾無筆現日夜臨紙片聚而作字糊之紙面以者
以編凡七十餘葉其精細細心之出聚成以律路、野之官朝は筆は蓋在情

色字之入中改社信洲生野也、
野は為る也、
西村は、
野は、
野は、
野は、
野は、

編

○ 野は、
野は、
野は、

野は、
野は、
野は、

○東京大由カ力十年乾大略

九ノリカニ十ニ年一月十日
一ノリカニ

鬼ヶ谷 四ノ月	小節 三ノ月
狭布 四ノ月	松ノ甲 三ノ月
十ヶ川 四ノ月	山 三ノ月
若原 四ノ月	高尾山 三ノ月
大野 三ノ月	忍ヶ谷 三ノ月
天伊 三ノ月	大野 三ノ月
野ノ 三ノ月	松ヶ谷 三ノ月
	松ヶ谷 三ノ月
	松ヶ谷 三ノ月

今手ノ力ニ依ルニ一月本領有
全手五ノ月 三ノ月
九ノ月 七ノ月 三ノ月 三ノ月
三ノ月 三ノ月 三ノ月 三ノ月
三ノ月 三ノ月 三ノ月 三ノ月
三ノ月 三ノ月 三ノ月 三ノ月

○日本美術評論

第一号

美術研究 第一号

○江戸東京人口

寛永十年 丁卯 八十七万七千九百
明暦十一年 乙未 八十五万八千
元禄十一年 辛酉 八十五万八千

北条氏 三ノ月 三ノ月 三ノ月

○大内氏實録 全五冊

山内直信 石山 三ノ月 三ノ月

西元一五七一年 弘治元年 日二廿五日 三ノ月 三ノ月
日十義隆 日二廿五日 三ノ月 三ノ月
日七約雅 日八ノ月 三ノ月 三ノ月
十六陶家ノ世系 世家第一 三ノ月

弘治元年 日二廿五日 三ノ月 三ノ月

其先石山王聖明の三子琳聖ノ出リ

琳聖ノ推吉天ノ即位十九年 辛未 歲 推化ノ中 其船國防口 依依即多々良 海ノ泊在

大内將ノ居ルニ

○第一卷 自弘治元年 弘治三年

○第二卷 自弘治四年 弘治六年

弘治六年 弘治六年

○列傳 妻妻 弘世室三條氏 義興側室内藤氏
又曰下皇 ○列傳 室座 一一一 ○列傳 子女義興女名不詳輩反口主大友修理大
夫義鑑室下し義ノ妻長子生ハシ

○列傳 親族 右田重量 右馬助トシテ 始祖ト盛長ト云ハ世直國ノ男子トシテ世盛房ノ子
依心郎右田重量 男

陶弘房 延徳元年一幸 吉敷郡仁保庄十高野ニ遷住 権律師トシテ 和泉山神護寺

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豐后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

○列傳 杉重運 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ
伊予國 杉重運トシテ 豊后ノ任人トシテ 任人多ク 善後トシテ 伊予國ニ在リ

隆量公錯刀流
白丸

三十一

附録 大内系圖 琳聖太子

○宇野 周成自漢代
仁年寺本堂供奉日記
宇野系了述
又云
果

右田圖書院 唐社上 右田寺信 唐社上 右田寺信 唐社上 右田寺信 唐社上

右田持監海 唐社上 右田重政 唐社上 右田重政 唐社上 右田重政 唐社上

右田甲斐守 唐社上 右田右宗元 唐社上 右田右宗元 唐社上 右田右宗元 唐社上

所録之二 大内及石見 國元五人 宗法宗村 一 一 一 一 一

日三 大内及石見 宗法宗村 一 一 一 一 一

高木氏之系 橋本右馬父 口有各名 宗助宗元 一 一 一 一 一

島田内虎助 服部守 島田内虎助 服部守 島田内虎助 服部守 島田内虎助 服部守

天文廿五年 正月十日 巳上 八十一人

法泉寺 唐社上 國建寺 唐社上 香積寺 唐社上 金堂院 唐社上

關雲院 唐社上 觀音寺 唐社上 宗福寺 唐社上 妙善寺 唐社上 妙善寺 唐社上

正壽寺 唐社上 善福寺 唐社上 清水寺 唐社上 芳勝寺 唐社上 龍澤院 唐社上

津和寺 唐社上 唐任寺 唐社上 保壽寺 唐社上 唐任寺 唐社上

〇三十一日 觀心 寺中一竹

此上之... 寺中一竹

寺中一竹

寺中一竹

寺中一竹

寺中一竹

寺中一竹

寺中一竹

寺中一竹

名所

石門

名所

橋

橋

橋

水車

橋

法祥

○光野の山 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在

○山門 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在

○山門 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在

○山門 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在

○山門 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在

○山門 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在

○山門 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在

○山門 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在

○山門 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在

○山門 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在

○山門 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在 延享二年七月廿三日 行在

半島郡北野村

馬場山馬場山 其頂上二丘あり

其頂上二丘あり 山形は長方形 其山は古くは馬場山と云ふ

山形は長方形 其山は古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

山頂に古くは馬場山と云ふ 山頂に古くは馬場山と云ふ

○元 庶見の心 加治市 加治の心

子名を多岐りく 五保の心

ハ 加治の心 加治市 加治の心

○ 加治 加治市 加治の心

中山忠光 正三位大納言忠光の子元昭

任まじりしを... 文政のころ... 使とあり... 任まじりしを...

一く... 加治の心... 加治市... 加治の心

て... 加治の心... 加治市... 加治の心

之に... 加治の心... 加治市... 加治の心

○ 明 加治の心

加治の心... 加治市... 加治の心

加治の心... 加治市... 加治の心

加治の心... 加治市... 加治の心

加治の心... 加治市... 加治の心

加治の心... 加治市... 加治の心

加治の心... 加治市... 加治の心

加治の心... 加治市... 加治の心

加治の心... 加治市... 加治の心

加治の心... 加治市... 加治の心

加治の心... 加治市... 加治の心

加治の心... 加治市... 加治の心

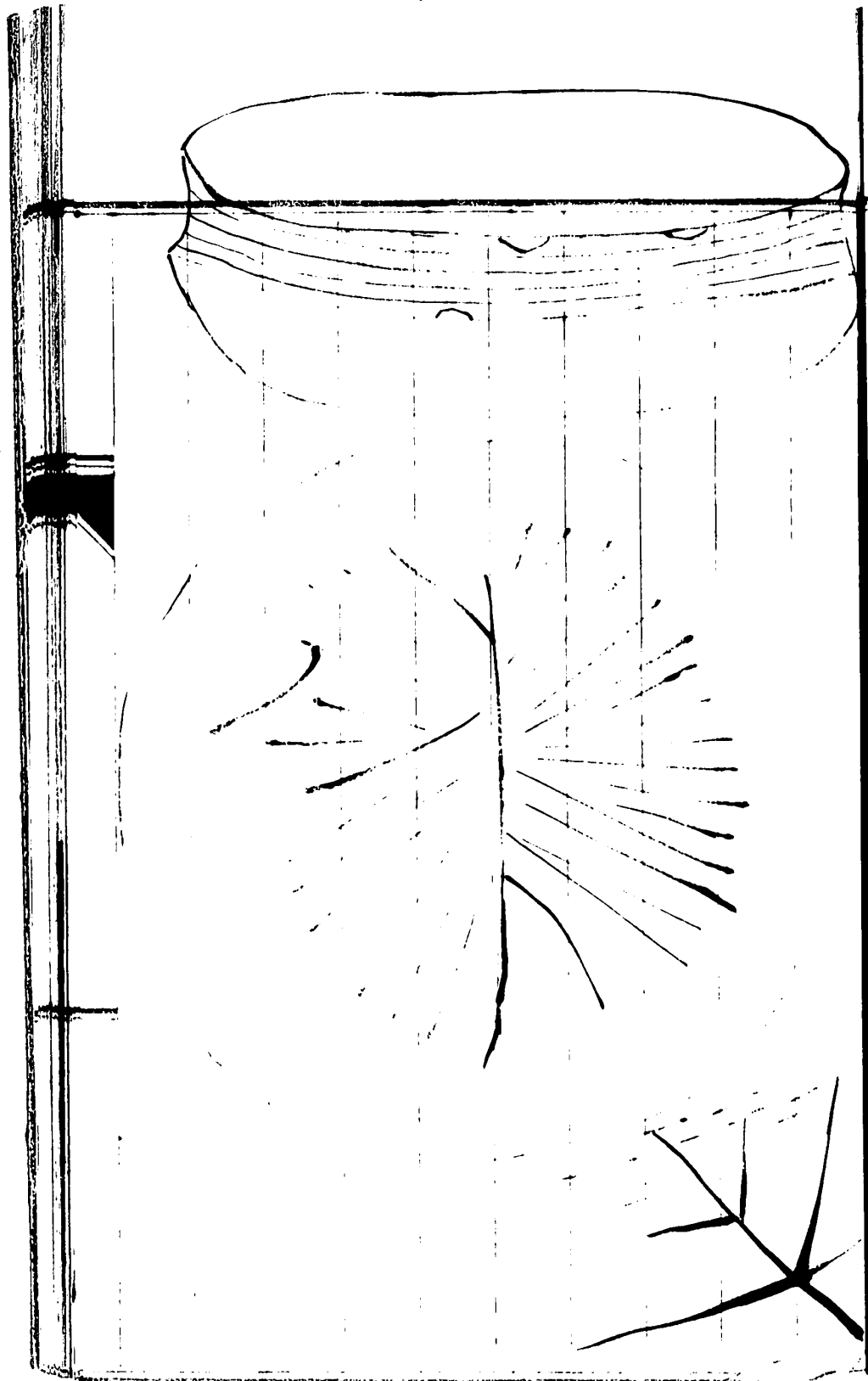
加治の心

萩野由之 松本愛重 小松福邦 木村正辞 三宅米吉 三宅雄次郎
 三月八日以前の法外... 専政... 萩野由之... 松本愛重... 小松福邦... 木村正辞... 三宅米吉... 三宅雄次郎...
 欣誠校 中孝 志保 岡田信利之右衛門... 寛永元年...
 古事記三冊 古事記三冊 伝、奥書あり

寛永元年 申 孟夏吉庚
 洛陽書院 前川茂右衛門開板

〇 明徳元年... 御... 御... 御...

- 一 古くある扁蓋 流石 中村信之
- 一 定利あるもの多座 市原宗信
- 一 白玉花生 三之巻 北村久次
- 一 神功十代 右多利義人
- 一 斎修り系家 白皇根付 吉原長兵衛
- 一 堆朱系花 珊瑚根付并諸抄付 同
- 一 四合一水入 金銀抄紙入 後一兼作難有 同 四十日



橘少夫人

橘少夫人

○藤原朝臣百能

○橘少夫人

○橘少夫人

東大寺

天平勝寶九歲五月二日

○天任十四癸卯下德國利根川水路印楯石古堀筋御善講市傳街勤之節
 御掛場之内武石村境内堀出古代之祭器雖非布用勤役為規模一取未
 者也

薄赤土燒

大廿九如番

添奉行井上庄左衛門正右

肥前北山ヨリ堀出ス

新前四七

熊本長崎仁平蔵

古鏡



管問

江藤正澄

管公ノ真筆トシ長谷寺縁起中管原朝臣道真トルヘキヲ管系和名ニ
前後二所正記サレタリスゲハ草姜ナルヲ以テ艸ニ从フヘキニ竹ニ从ハレタルハ如
何ゾヤ柞和名鈔姓氏録等艸ニ作リ康熙字典ニスゲハ艸ニ从ヒク
ワニモ亦艸ニ从フト虽其義殊ナルリ古人ノ字畫偶似字通用スル
「アト」ト爲多ク残リ古ノ字聞クモ管公自ラ姓ノ字画ヲ誤
リ玉フベキ謂前ヘカラス六葉通ハ何ト出タルヤ尙敢云フ
明治三十年前後

水野光臺

承問管、字云々始命字義於ハニ義アリト覺ヘリ記ニ
隸法彙纂、管管中管字トアリカスレハ筆作筆、類
六書正譌ハ見ヘス隸法彙纂ハ音通トモ解カタク
爲ハシクハ識者ニ問ヘシ

即り
水野香都
お厚

明治三十四年三月廿六日

主西外河武具士紹久持鏡

○筑後高良神社古文書宝物目錄之内抄出

一本社縁起 一軸 撰者詳不詳代建保ノ頃ノ物也之古画縁起一軸アリ 残欠

上巻古色揃之し舞内三階郡宮本村高良神社建保年中後迄西将軍泰成 以王官許古

縁起アリテ画体同之ニナリ又後世修補ヲ加シ大画縁起二軸ヲ添フ天文ノ頃ニキ

ナリ

一白縁起書 一巻 口上至古至洋

一斎衝文書 一通 一天慶文書 一通

一十誦會文書一軸 長保五三國司大从兼平御免縁起椿宿祢ホ作ナリ

一大祝鏡山家文書 二軸 二軸之古也下 四十九通

一大宮司宗崎家文書 口和之古也下 一軸 九通

一在一家文書一軸 口和之古也下 二十九通

一寛保棟札已下七枚

一古鏡 二面 上是ナリ

一船釘太刀 一口 銘不詳 棟三主宗阿波守平國勝八景

一青江太刀 一口 銘南無高良ノ元徳三年三月四

一古印 一顆 銀ノ輕鈕

一古鏡胴 一領 里糸威

石

○筑後高良神社 御宇御年ノ事ノ部

○絵巻部 上田房井 ○人刑部 後南河内守 ○治力部 國政ノ人

三井二號

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 剛利新 保井三下

○ 剛利新 保井三下

○ 剛利新 保井三下

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

一 申緒 創設於明治二年五月也其由長德建之

董地亦成

申緒亦成

漢川新成

申緒亦成

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

○ 信州新 七三三三

社友

神友

入三百

百友

入二百人

一 堀内 山百四十年

氏有地中一軒

板戸越平以
松本地

一 信徒

千六百八

一 信友 雜家

北里三千四

一 神友

此社村以社太已支社社和書
宮永保教

社主

新徒 越平

村長 越平書

信友 雜家

○ 可飛才區隔邊字中僅後中向一坊

一 會島 藤島 藤島 社 竹 溪 阿 婆 屋 吉 吉 對 子 高 岡 通 一 幅

一 河田 中 乾 人 九 像

赤衣者
之回様

本堂大勢和教書

稿本

一 一 日抄四

一 信友 草 師 傳 川 竹 田 賢

全康紙

一 一 日抄

一 東 原 田 南 女 子 傳 國 比 水

全康紙

一 一 日抄

一 傳 上 女 師

二回寄入

一 一 日抄

石三十三年三月 日四寄入

○ 三子多寄來直見之十三年三月五日寄見書卷之二宅三子多抄出

傳書志

貝多馬信編錄

一 神書

一 倭姬世記

一 冊 一 神階記

一 冊

一 大倭一宮記

一冊

一 神祇秘抄 其不好二冊

一 水山記

神祇秘抄 其不好二冊
詳也可有好事

大破頓網免許

大角力免由

大角力免由 寺田山門の御書

軍記 武守仲心 武守下 武守上 武守中 武守下 武守上 武守中 武守下

栗山大膳遺事

利幸 栗山 栗山 栗山 栗山 栗山 栗山 栗山 栗山 栗山

栗山大膳遺事

栗山 栗山

栗山 栗山 栗山 栗山 栗山 栗山 栗山 栗山 栗山 栗山

三十四年五月五日皇極殿下御名ハ裕仁 迎宮御下

右御命名 迎宮御下 御誕生ハ四月 日

藤田神七回 御誕生ハ四月 日

若村新夜 墨本遺行 三冊

若村新夜 墨本遺行 三冊

信書四冊 六冊

中使通茂白懐哉 一冊

中使通茂白懐哉 一冊

三國志漢書卷之四
卷之四

此以合可
二并居世
一書居
二出陽若
一亦居
七月停
林梅
一隆吉
秋村

長年中國... 一編一

國... 一編一

王... 一編一

丸山... 一編一

王... 一編一

伊藤... 一編一

月... 一編一

多... 一編一

大... 一編一

西... 一編一

花... 一編一

藤... 一編一

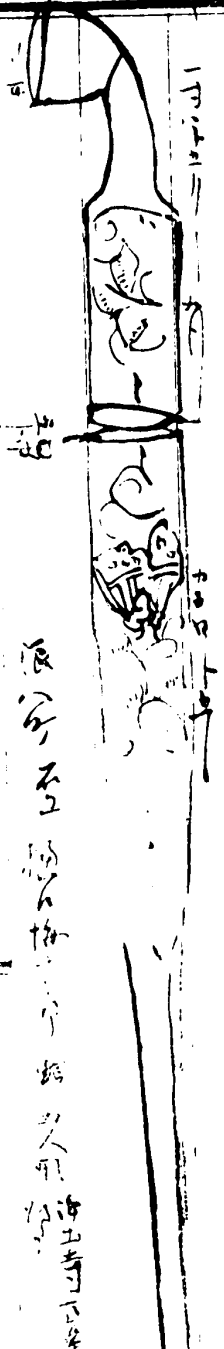
土... 一編一

右... 一編一

觀... 一編一

美... 一編一

此... 一編一



漢... 一編一

直方系圖

高 在五位下里田東市初多々者 慶七十七年福國院内三生

元和九年十月在河口筑于那東蓮寺是住持 寛元三八九叙多々下東市中

日十六年十月三日麻布初安病死年二十八 祥雲寺

乙 在五位下石馬初後東市 寛元三十一叙多々下東市中

同十七年三月七日高政 廣領下

寛文三年七月廿五日於林布初安病死年三十 福國寺

長 在五位下 宣内少僧 初在宣内 万治二年八十一在生在生八

宣文三年十月九日之勝 廣領下 同四年四五之依願 初多々下四方石馬

同五十三之依願 初多々下 同廿八之依願 初多々下

長 在五位下 宣元七廿六江府生

元禄元十二九之依願 本州之内 結于遠契 初多々下 同新田五方石馬

東蓮寺 直方居 宣元三十三於江府 初多々下 同人依願 嗣不立政

五方石之領 本州 宣元三命有 宣元寺

○ 青柳村 在直方物 宣元寺 宣元寺 宣元寺

早 在直方村 宣元寺 宣元寺 宣元寺

東 在直方村 宣元寺 宣元寺 宣元寺

那 在直方村 宣元寺 宣元寺 宣元寺

○ 同十年八月 宣元寺 宣元寺 宣元寺

元和九年

寛文三年

宣元三年

宣元三年

金毛因多物美

之
平
山

松平少将の目

多分伝書

山村伝書

松平少将の目

山本松平伝書

宗才伝書

松平少将の目

西才伝書

西才伝書

河内土師伝書

松平少将の目

松平少将の目

史学界

才一巻
史学界
五才伝書

河内土師伝書

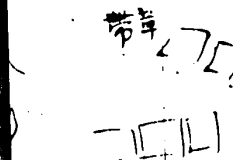
傳書若くは伝書

桶篋

楠木蒔繪螺鈿入
元結水少将

白銅鏡

草帯
金物
鏡玉



日
才一巻
才十号

口廿二年
土司才一巻

平治御門伝書

伝書住吉彦思伝

信書名、切りし修、伝書伝書を、解を、一、て、朋、り、切、張、り、し、り、

女、氏、の、身、入、の、形、不、の、り、て、然、り、也、の、り、し、向、り、や、文、

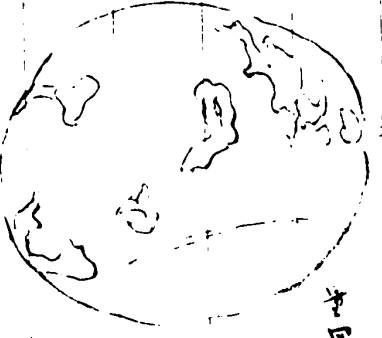
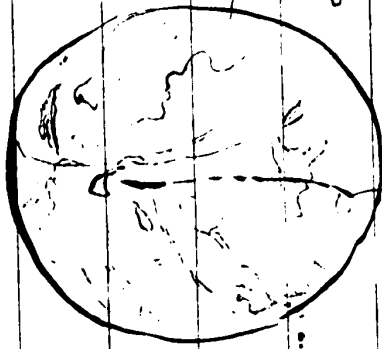
日
才一巻
才七号

羅馬の伝書



口二
才一
才二
才三

○三十四年十一月廿七日... 地味石下...



○三十四年十一月廿七日... 地味石下...

○三十四年十一月廿七日... 地味石下...

○三十四年十一月廿七日... 地味石下...

○三十四年十一月廿七日... 地味石下...

○三十四年十一月廿七日... 地味石下...

○三十四年十一月廿七日... 地味石下...

千代積会

千代櫃

教了要言

水櫃...

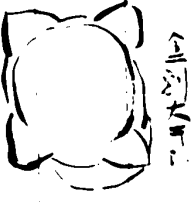
...

...

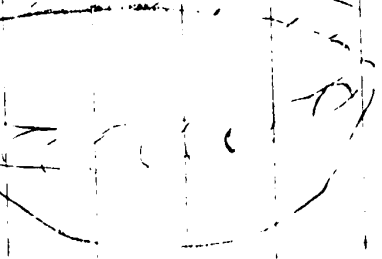
...

...

...



...



...

...

...

○ 歴史地理 卷三

以信守守年二月一日發行 日下二月五日發行

○ 歴史地理 卷六

天保勝正八年權印印 至國抄外 世錦標年位帝倍指年子 地五回一

上件二册助 程任行又文室五人智努 三位下年之居種種百牛卷 任四一

○ 歴史地理 卷七

古物を以て入史とせし工部とて定むるは他人取果とて定むるは

一 墳墓の 築部政 秩六の 抄所村の完備抄の

二 歴史地理の要領の抄 至の返物 世錦標年位帝倍指年子

○ 施氏三略 義義卷第三十一

三略

亦論五略本本兵法而謂之黃者公三略者前漢張
子房授蕭之事指勸城山下黃石以為已而其授之

書

中略

施氏三略 義義卷第三十三

元和四年丙申秋重九前一日終朱點之巧也吾邦未見有板下柱の

皆書本也故無檢同即本之余始而句讀分之處點成之哉苟而

傳諸家童後生改之勿憚

善易蒲田菅玄東拜書

所屬水雷艇十餘隻あり

○（不明）

○（不明）

○（不明）

○（不明）

臺灣神社鎮座式

（註）白川宮を奉

同せる臺灣神社の建築は本殿を始め祝詞社
拜殿・脚車・水屋・祭器庫等既に全部竣工
御座在所、神庫内内部の造作未成を以
のみにて風箏祭器及び本殿以下の御座所
は目下東京其他にて御新調中に係り檢査
の荒垣・玉垣・瑞籬も今月中には落成の望
れば同神社全部の落成は翌月今月下旬ま
べく御座に架せる鐵橋も九通り竣工して
橋板の敷詰も目下欄干の据付中、これ
是れ亦々遠からず落成すべく以上の如く
竣工事は悉皆本月中に竣工すべければ故に
の御座日に當る十月廿八日の前日即ち廿
日を以て嚴肅なる鎮座式舉行の事に略ぼ
定せりと尙當日の鎮座式には皇族正下の御

○（不明）

○（不明）

○（不明）

○寛政神社宮司 大橋 繁 輔
中山村 土田 三 夫

（日） 報 新 聞 閩 台 十 三 年 十 月 廿 八 日

○（不明）

一 石 井 徳 隆 三 郎 中 一 村 野 郎 三 郎 村

一 小 山 山 本 宗 三 郎 村 一 村 野 郎 三 郎 村

○（不明）

○（不明）

○（不明）

○（不明）

○（不明）

○（不明）

○（不明）

古瓦標

秋田 古瓦標 二尺五寸

初出 古瓦標 厚四寸五分 比老村取 出 古瓦標 小古瓦標 比老村取

古瓦標 平の古瓦標 比老村取 古瓦標

古瓦標 比老村取 古瓦標

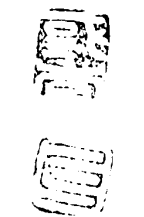
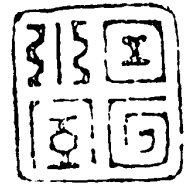
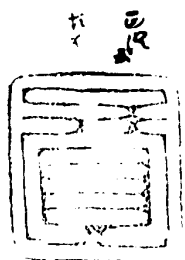
古瓦標 比老村取 古瓦標

古瓦標 比老村取 古瓦標

○ 福田町 古瓦標 比老村取 古瓦標

福田町 古瓦標 比老村取 古瓦標

甲子 古瓦標 比老村取 古瓦標



古瓦標 比老村取

福田町 古瓦標 比老村取 古瓦標

○ 建築雜誌 古瓦標 比老村取 古瓦標

古瓦標 比老村取 古瓦標

古瓦標 比老村取 古瓦標

古瓦標 比老村取 古瓦標

古瓦標

守屋時義 紀伊 守屋時義 紀伊 守屋時義 紀伊

甲 推古時代

乙 聖德時代

一 前期

丙 平安時代

一 弘仁期

丁 鎌倉時代

甲 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

乙 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

丙 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

丁 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

戊 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

己 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

庚 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

辛 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

壬 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

國華分一

○國華 第一号寺之在座の座の志

一 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

二 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

三 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

四 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

五 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

六 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

七 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

八 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

九 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

十 邦部上方瓦蓋正尊之在座用多丁其之在座用多丁一作之在座用多丁

フエノ口 守屋時義

山崎千代

綿甲曹

瑞雲寺太平堂、三年正月迄東海南海西海

等道節度使料綿襖曹各貳万二千具、其制一如唐口新様仍象五行之色皆

畫甲板之形、依テ想フニ綿襖曹上ニハ甲板形ノ襖表ニ畫キ綿甲曹上ニハ實ノ甲板

ヲ襖表ニ綴リ白ヒキテ之ヲ製シ甲板ノ形ヲ全ク制シ甲ノ形ヲ画テ畧テ制シ襖

鐵甲 華甲 注日本代 三十六 走仁天皇實元十八月初二出 天平華ノ 大古完

○守信平等院圓鳳堂 大和吉野寺藏系曼陀羅前荷及皇朝中寺等此堂之造テは唐仕殿

ヲ模視ハ一五ヲ三ニテ

○本邦陶説 説古原始古窯考 古窯年表 陶治店 今京雜作

○陶土種類 かわらぎ 辰辰 信長土 天城土 墨谷土 飯能土 武蔵

安中土 上野 宇治土 辰辰 白土 黄土 三ノノリ 白土

○陶石種類 日圓石 伊豆石 水戸石 赤陸 白川石 千倉石

天竹石 肥前 房州砂 水晶 甲斐 信州砂

油薬 割下ノハ先原ノ製テ木理緻密ナルノ灰ナラハ世ナラ善ク

○柞裡 栗 椿 梓 杉 桑葉

○石漆 油薬 十倉石 白川石 不火

青磁油薬 十倉石 漆青 杉 柳皮 木灰 一ノ二

黒磁油薬 白川石 房州砂 黄土 仁石 木灰 三ノ四

○才一土瓶類 土瓶等ノ口有物ノハ三田三横三口ハ口出又空元ヲ留メ

才一四筋 四類水鉢ハ半扁ハ器ノハ用

才三猪口類 猪口湯呑茶碗香爐ノ類ハ形ハ古物ヲハ三田

才四尺

袖 宇里云 物有也

窯 日焼 尾庵也

匣鉢 職工之ヲ稱 上

繪巻物語

先長ハ藤女元
七百卅五年
の御手紙
伊豆守
能登守

庭ハ園茶屋ノ人家ノ門又堂下ニ至ル所ナリ

○園作神 園相社 無仁王宮ノ堂ニ住居テ伊勢口ニテ守モリ皇宮ノ権也

一葉田ノ科
大水上ノ兒曹ノ科

○園部 園部司 刺入 上和者時五村ノ氏市流ニ住居マシタル一様ナリ

○本邦西洋洋早考 中西ノ上

○年中行事絵 先長中ノ大作ナリ 藤女ノ宮及御所見聞書ノ探求書等ノ画工ノ流ナリ

下川丸 躬行記 先長ハ藤女手中ノ人ニあはせし書物ナリ 先長ノ御所見聞書ノ流ナリ

○粉川寺法巻 先長年中ノ御所見聞書

○伴太助ナリ又おき抄本ニテ先長ノ御所見聞書

○鐵巻子 付太助ノ御所見聞書ニテ先長ノ御所見聞書

○先火ノ出と書 先長ノ御所見聞書ニテ先長ノ御所見聞書

○三千巻御所見聞書 先長ノ御所見聞書ニテ先長ノ御所見聞書

○先長ノ御所見聞書 先長ノ御所見聞書ニテ先長ノ御所見聞書

○先長ノ御所見聞書 先長ノ御所見聞書ニテ先長ノ御所見聞書

○先長ノ御所見聞書 先長ノ御所見聞書ニテ先長ノ御所見聞書

○先長ノ御所見聞書 先長ノ御所見聞書ニテ先長ノ御所見聞書

○先長ノ御所見聞書 先長ノ御所見聞書ニテ先長ノ御所見聞書

○先長ノ御所見聞書 先長ノ御所見聞書ニテ先長ノ御所見聞書

○聖音寺御所見聞書 先長ノ御所見聞書ニテ先長ノ御所見聞書

○国光源伝考の曲水宴淫觴 ○列木宮花池 ○王子別業

皇國曲水宴の顯宗天皇の御事天皇紀元年三月上巳幸後花園

列木宮、武烈天皇の御事、天皇紀八年三月

別業 繼體天皇紀近江口高島郡三尾之別業

○橋豊日皇子後園 ○須彌山ノ横造 ○後我大巨島池 ○石山丘

○巨勢川 巨勢山

○武内名林 巨勢川

○土佐系國 川崎十虎

大觀冠鍾云云六世周院昭々

○利基 兼輔 五世基光

○時信説の全 因云又都隨唐代時信一見之木抄ノ創主ナリト云リ

本朝史祥 金銀時信 康保四十七年在大内史頼朝

伊勢物語下 存の事乃及云々

宋史 日本傳 倭裔然力塞匡義

上藤原理子書二卷

類聚雜要抄

類聚雜要抄

類聚雜要抄

類聚雜要抄

用原科三寸半板大尺寸
木直半切七尺
經細料一三寸尺
同原科の正

○本堂の修繕... 天保元年二月

○時代... 天保元年

○... 天保元年

○... 天保元年

○... 天保元年

○... 天保元年

○... 天保元年

○... 天保元年

○... 天保元年

第九卷

四華第九編 法隆寺建築説 里河安親

建聖... 推古天皇五年... 而... 鑑... 白... 陽...

又、陵... 青... 帝... 加... 班... 鳩... 寺...

○法隆寺問寺七号

○法隆寺問寺境内

○法隆寺の寺金堂建築 元明天皇和銅元年

○金堂壁画 佛師... 西壁... 阿... 東... 壁... 宝生

○浄刹北浦... 昭... 刺... 西... 初... 國... 如... 法... 寺...

○... 聖... 聖... 刺... 上... 柱... 上... 山... 中... 法... 隆... 寺... 法... 隆... 寺...

天保元年二月... 和... 天... 法... 隆... 寺... 法... 隆... 寺...

春紀六年六月
 華作千株磨
 同前續解布
 桃澤市行到
 テアノ、分フ

○過去現在因果経
云々 他其此子見く唐は前、若色性、確証ナスモノナリ

○經卷 藥本日本書一、三蓮華野蓮華寺、
云々

○織繰 本邦人、起ルモノ、
云々 今織繰ナリ

○鵲繰 縞ノ者ヲ織テ、
云々 今織繰ナリ

○月利主 形五形ノ、
云々 今織繰ナリ

五色ノ人物山水花鳥歌謠、
云々 今織繰ナリ

不修ノ者、物
 其ノ外、口
 手本同、行
 向案、三編

○古家考 本邦、
云々 今織繰ナリ

○織繰 縞ノ者ヲ、
云々 今織繰ナリ

○本邦凡俗 風テ、
云々 今織繰ナリ

○坂方、
 又、
 車、

○本邦凡俗 風テ、
云々 今織繰ナリ

髪
結末ニシテ
髪トスナリ

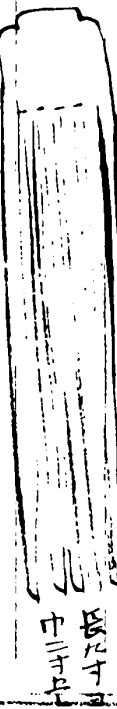
○頭 髪ヲ縮スル一 本古甲ヲ髪ニ在右中ニテ之ヲ梳リ左右ノ耳田ニ

之ヲ結束ス之ヲ美更良ト云元ニシテ耳田ニテ結束スガ故ナリ

髪ノ掛ハ法 紫葛ヲ用テ之ヲ髪ニテナリ 蒲子ハハ 昔昔ハ色更トモハ更里馬ト云テ教

髪ノ裝飾 本古甲ノ髪ニ飾ハカニ藤ヲ掛ルコトナク髪ニモ玉ヲ懸テ飾ルセリ

櫛ノ新ノ様 左右ノ髪ニ各一収ヲ刺ナリ



頭ノ裝飾 古ハ玉ヲ懸フコトナリ 頭玉ト云

○手 部 玉ヲ以テ手ヲ飾ルナリ 手ヲ飾ル今ニテ天カケテ飾ルコトナリ

○髪 本古甲ノ髪ニ飾ルコトナリ 上右至テハ玉ヲ足テ裝飾スルコトナリ

本古甲ノ髪ニ飾ルコトナリ 本古ノ髪ハ此ニ謂フコトナリ 髪ノ飾ルコトナリ

○髪 便面ト云フ 髪ノ飾ルコトナリ

平家一門ノ散島朝経ニシテ今ハ三載ハ便面ト云フコトナリ 此便面ハ傳ハルモ其ノ事ナシ

只大徳天寺堂ニ在ル事ハ分六分七ニ卷テ口ニ飾ルコトナリ 此ハ法寺ノ飾

ノ所ナリ 此ノ飾ハ法寺ノ中傷又其他ノ事ハ此ノ飾ハ此ノ飾ナリ

○室ノ七巻ト云フ 長巻 此ハ此ノ人 昔ハ此ノ人 此ハ此ノ人

晴川春水 此ハ此ノ人 此ハ此ノ人

新水 此ハ此ノ人 此ハ此ノ人

廣川春幸 此ハ此ノ人 此ハ此ノ人

○此ノ巻ニ在ル 此ノ巻ニ在ル 此ノ巻ニ在ル 此ノ巻ニ在ル

○此ノ巻ニ在ル 此ノ巻ニ在ル 此ノ巻ニ在ル 此ノ巻ニ在ル

法華經一部廿八卷 無量壽經一卷 觀音經一卷 阿彌陀經一卷

此ノ巻ニ在ル 此ノ巻ニ在ル

○平家一門ノ散島朝経

只大徳天寺堂ニ在ル

ノ所ナリ 此ノ飾ハ

○室ノ七巻ト云フ

晴川春水

新水

廣川春幸

○此ノ巻ニ在ル

○此ノ巻ニ在ル

法華經一部廿八卷

無量壽經一卷

觀音經一卷

阿彌陀經一卷

十五卷

船名心造 信望心頭又 理教心 仁徳心

右聖宝勅多破損之由且加修護重而奉納者也

慶長七年五月日 德川家康公御前

●本朝陶説 今泉 尾形陶器其創始者許之者云弘仁三造泥器生之世に延喜三重致

泥器ノ以テ其古知悉本邦陶器鼻祖ハ藤原ノ御台口ニ在ラシキ之ヲ紀ス

其人知多ク古瀬戸口ノ子ハ家四ノ景正貞應三年道元祥仲ノ障リニ本邦於テ陶器ノ傳流

セム以前製作ナクハ数々即チ如ク氏並北ノ下ニシテ様々本邦上世ヨリノ發明ニシテ藤原ノ

佐ニテ又舟尾ノ中ニ底ニ珪砂ノ溶解シテ細ヲ絶ラセシキモノナリ

○古瀬戸 根板 藤原師房物 大瀬戸 朝日春後 光隆御印 糸川五郎 初母樓

○真中古 木目 青江子 玉栴子 苗代目子 黄瀬戸 伯菴

十一号

本朝陶説 十二 黒川 太古冠云器用以外

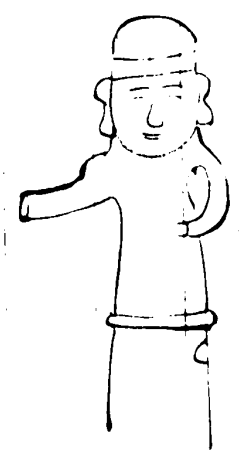
外一 玉玉子 瓊玉玉鬘 髻玉 外二 母手若ん 之ノノ毎ノ内ニ龍ヲクニシ

外三 襷ヲ若ん 若手オハ一重三重五ノ下葉 外四 衣ヲ若ん 襷ノ上頭又玄頭アリ多クハ上

外五 裳ヲ若ん 腰間縫ヲ多クハ長ハ腰ニ至ラズ 外六 帯ヲ結フ者ハ布ヲ單ニ初ノ物ニシテ有テ

外七 履ヲハク 布ヲハク作ル又竹ヲ編ミ造リ 襪体ニ之若クハ袴以テ衣次ニ市次ニ履ヲ穿キ衣服ニ合フ

冠帽



冠帽ノ形成 布類ヲ用ヒシニ又ニ聖御用ニ於テ若クハ心冠帽ヲ若クハ心冠帽ノ形ニシ

袴

古曰に袴字ヲ用ヒテ袴字ヲ用テ袴ノ前ニ袴ヲ袴也
布類ニ長ク又紫袴前ニ同クハ古キニ長ク袴ノ前ニ袴也

裳

古曰男子ノ裳ハ後世ノ袴類也
古曰男子ノ裳ハ後世ノ袴類也

帯

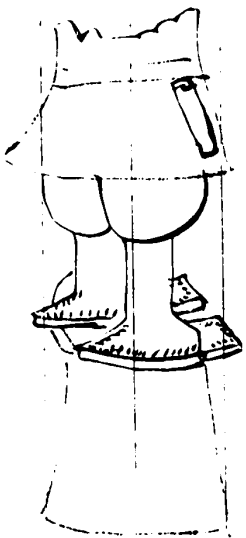
一重ハヒテ諸人等々多ク凡俗トテ
一重ハヒテ諸人等々多ク凡俗トテ

事ナク大伴帯目子又大帯身子
事ナク大伴帯目子又大帯身子

石唐前ニ奉林等ニ布ナク
石唐前ニ奉林等ニ布ナク

帯ニ用ナリ

履 男大布等ヲ以テ造リ又紫藤布ヲ用ナリ



由是口比企即大谷村発掘品
履ノ名ハ後方ノ長ク出テ甲ハ敷ニ造リ
ツケナリ

本朝風俗記卷之三 髪と冠と袴と袴と

推髻 其形状推髻ニ似タルヲ以テ推髻ノ字ヲ用タムナリ

又一相、推髻 異國トテ云スベシ

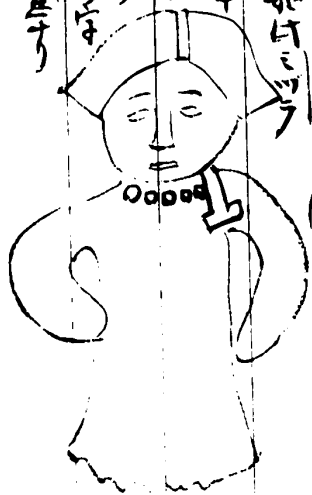
○由是口比企即大谷村發掘品

推髻 推髻ニ同シ如クハツツ

ヨ長ク卷テハ中ニ佛ヲ隱シタ

ナリ古事キノ頂上トナルハ頂上

髪ノ中ニ隠ス蓋ナリ



○備前發掘品本村推髻

古事キノ頂上トナルハ頂上

紀元前二百年身金一ノ各佛藏ニ于テ中一トクニハカク

以天香與山之
真依天乃...
○此由亮...
所田...
兵依天乃...
氏...

推髻
氣上上事...
推髻

推髻

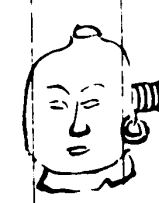


上野口...
白石村...

上野口...
白石村...



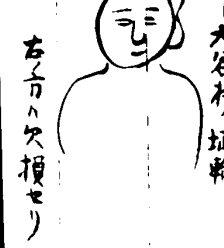
上野...
推髻



五和ノ降...
推古天皇...
年終リ



推古天皇...
推古天皇...
推古天皇...



髪ヲ懸ル様 髪ヲ縮メ之ヲ飾ル本朝固有ノ風俗ニイテ伊弉諾守ノ所裝飾
ヨリ起ルハ一カウラハ髪ヲ縮メ之ヲ飾ル始メ髪飾ニ變州ヲ抹掛ヨリカウラノ路



明兆 如拙

宗地
兵原
等原
香舟
相舟
侍野
後野

如拙山本國中...
石室...
終而實承...
院...

陶説

皇院 承平...

○乾山院

之福以...

○保見院

清君...

仁清院 野村清孝上座坐禪者人喜於仁清寺村に建仁智清系本仁清下座

○ 妙日院 宇治郡山ノ麓坐禪者命之製休也

○ 信生院 近江信生七塔村坐禪者命之創也

○ 眼所院 坐禪者命之創也

○ 伊賀院 坐禪者命之創也

○ 万古院 元文二年坐禪者命之創也

○ 深院 和泉深村坐禪者命之創也

○ 丹波 丹波院坐禪者命之創也

○ 美作師宣 美作師宣坐禪者命之創也

○ 師宣 師宣坐禪者命之創也

○ 師房 師房坐禪者命之創也

○ 師永 師永坐禪者命之創也

○ 出雲院 出雲院坐禪者命之創也

○ 萩院 萩院坐禪者命之創也

○ 尾戸院 尾戸院坐禪者命之創也

○ 上野院 上野院坐禪者命之創也

○ 工門 工門坐禪者命之創也

○ 尾戸院 尾戸院坐禪者命之創也

○ 上野院 上野院坐禪者命之創也

○ 工門 工門坐禪者命之創也

○ 尾戸院 尾戸院坐禪者命之創也

○ 上野院 上野院坐禪者命之創也

○ 工門 工門坐禪者命之創也

本邦陶器 続

○中野焼 上野郡中野村に天徳二年開創す製作者の青華手標印す

○初川焼 西乃初川に唐七年開創す名あり炮烙す作らる

○茂手焼 此後弘治の御時御座申す下美陣御車林白米雀沈腐

金何丁氏陶工七世十七人御座り唐の御時高麗の御時其ノ良工ヲ大隅口帖

依ニ移シテ唐器ヲ作ラシム其釉墨色ニシテ唐ノ所ニ劣リ世上古器ナラズ

全瀬子ハ一説定公二年開創命ニ傳テ製器ハ世下器内古製ト見ユルモ

其中心ヲ再燃シテト覺シ白磁ノ内其私ノ美ヲ御有モトテ御手標印ス

又二種虎斑燒 黃色ノ釉ヲ螺線ニ置キテ御座り標印ナシ

横古門ノ作ラシムト遠妙時代ナリ古器ナリト見ユルモ其ノ美ナリ

○對馬焼 天徳二年開創其以上ノ子(七名有)後三三院小道ニ

カ通シ、防年々、防年々、其製器御座り御座り御座り御座り御座り

千ノ下器

○志戸呂焼 遠古ノ古器ノ一 大永年ノ開創ナリ其後衰廢ニ近カリカ

宜永年中遠古、初後ノ御座り再燃セシメ其製器形多ク口徑厚キモノ

瀬戸ノ美入ニ思フモノアリ

○九谷焼 宜永年中大聖寺前田氏其臣田村老臣(今三三谷村山中)窯ヲ

用キ製器其以ハ阿茶院ノ上器ヲ模シ水指アリ緑青ノ彩色ヲ螺線ニ画キ金粉

ヲ以テ之ヲシクムモノアリ尤奇也 万治年乃臣後名ヤ以即ト云テ肥前ニ置シ磁器法

ヲ學ビハ製器大ニ精ニ越キ極細ナリ守景流傳ニ傳テ其ノ美ナリ今守景下絵ナリ

彩釉ノ目的ハ専ら文趾ニ在リ

○大槌焼

天和甲吉都入ノ弁長カ加賀大槌町ニ樂燒ヲ創ス
大槌ノ銘
茶ノ林ス

○依波焼

佐州金太郎作ト銘シテ無名異燒ナリ
近世ノ製ナリ

○今戸焼

千葉領ノ頃リ始ル茶ノ土可燒ヲ創ス
貞享以前并テ七、始ル
白馬行燒

○常清焼

天和年々同創古製ハ行基燒ト云フ
製陶ノ上ナリト云フ

○相馬焼

慶長年々乃重御中村ニ定創ス
馬ノ狩野尚信相馬ノ常言ナリ
又九曜ノ紋ヲ付ルリ無紋ナリ

又九曜ノ紋ヲ付ルリ無紋ナリ

凡ソ古昔ノ陶器皆外國ニ仰キト云フ人カラス

支那

南京省 茶瓶

土燒

磁器

土燒物

北京

磁器

土燒物下
順徳府

山東

兗州府

山西

同上

陝西

同上

河南

同上

江西

同上

浙江

同上

福建

同上

廣東

土燒物
白燒ナリ
併磁器物

外口朝鮮

磁器色々

東京

土燒物同上

莫卧爾

同上

荷蘭

同上

墨徳川氏地以米慶元ヨリ元餘源トモテ寄港ニ輸入ノモノナリ古陶磁器

査ト古カラシヤ

○古窯年表

後堀河天皇

貞應三年 勿藤四郎在門 贈道元 宋 陸行
安貞元年 藤原師房在宗 五年 古陶 窯創ス

四條

後嵯峨

後深草

龜山

文永 二世藤原實賴 戶奈明ス
弘安 信樂燒創始

伏見

永仁 藤原實賴 創ス
後伏見

後伏見

後二條

花園

後醍醐

●享和 唐澤量米ノ製山ノ百ノ在ル
●建武 四年藤田四世藤三郎祖凡黨ヲ創シ●伊賀焼●南津焼●製山降ノ文
●明三至ル

後村上ノ一 後龜山ノ一 後小松ノ一 ●應永 備前焼創始

新光ノ一 後花園ノ一 後土南門ノ一 ●又明志野宗信志野黨ヲ創シ
●南津真高麗山降ヨリ又正至ル

後柏原ノ一 ●永正 五郎館屋樂焼發明ス●秋焼●今多焼 後今良ノ一
●八年吳村瑞五郎不天明ヨリ帰朝

正親町ノ一 ●天正 古田織ア黨ヲ創シ●常滑焼●京都陶器●丹波焼
●五年織田信長々祐ノ命ヲ樂焼造シ●二十一年秀吉長祐
●樂焼ノ金印ヲ与

後陽成ノ一 ●慶長 朝廷美濃多治村人ノ命シ土器ヲ製セシム
●五年布田黨 ●同年高麗花繪門構化 ●九年上野焼
●三河内黨 ●柳川焼 ●薩大焼 柏原焼 ●對馬焼

●給香津山以後ナリ云

後水尾ノ一 ●元和元年 鶴幸右門伏見ニ主人形ヲ創ム

●寛文 御酒井黨 ●野村仁清黨 ●膳所焼 ●高取焼
●正保 山崎黨 ●河津ノ人ノ創シ ●赤原焼 ●

後光明ノ一 ●色ノ法ヲ試ム
●慶安 出雲焼 ●相馬焼
●美濃 志田黨 ●木田志ノ吉田ノ
●万治 陳元贊佛化元贊焼ヲ創シ ●尾戸焼

靈元ノ一 ●天和 中野焼 ●大相焼
●元禄 三田焼 ●勝山焼

土御門ノ一 ●享保 大河内黨創 ●梅ヶ谷ノ一

櫻町ノ一 ●元文 万古焼
●寛保 三年緒方乾山發

桃園ノ一 後櫻町ノ一 後桃園ノ一 光格ノ一

●享和 加藤民吉瀬ノ磁窯ヲ創ム

善ノノ諸藩陶器ノ事ヲ因シムニ多ク其ノ一時玩弄ノ藩政改革ニ與リ

明治三十四年四月 今泉雄作識

河津傳記 卷之三

○河津傳記 乾 河津河休書、頼之懐又亦アリ、皇承三朝且 鏡山古塔之軌載

河津傳記 卷之三 河津傳記 卷之三

大友少公改を中津守と改す 西の郡山に中津守 以は一族少皇承公改す

中津守 皇承公改を中津守と改す 西の郡山に中津守 以は一族少皇承公改す

皇承公改を中津守と改す 西の郡山に中津守 以は一族少皇承公改す

皇承公改を中津守と改す 西の郡山に中津守 以は一族少皇承公改す

皇承公改を中津守と改す 西の郡山に中津守 以は一族少皇承公改す

皇承公改を中津守と改す 西の郡山に中津守 以は一族少皇承公改す

皇承公改を中津守と改す 西の郡山に中津守 以は一族少皇承公改す

皇承公改を中津守と改す 西の郡山に中津守 以は一族少皇承公改す

○河津傳記 卷之三 皇承公改を中津守と改す 西の郡山に中津守 以は一族少皇承公改す

皇承公改を中津守と改す 西の郡山に中津守 以は一族少皇承公改す

皇承公改を中津守と改す 西の郡山に中津守 以は一族少皇承公改す

皇承公改を中津守と改す 西の郡山に中津守 以は一族少皇承公改す

皇承公改を中津守と改す 西の郡山に中津守 以は一族少皇承公改す

山上 古塔あり



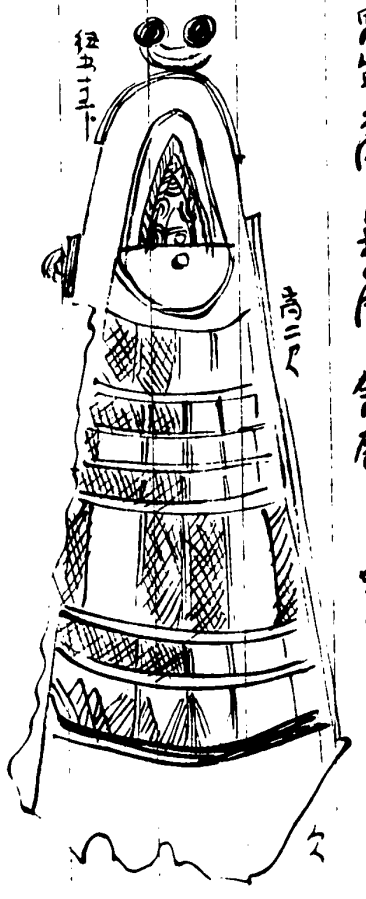
皇承公改を中津守と改す 西の郡山に中津守 以は一族少皇承公改す

○皇承公改を中津守と改す 西の郡山に中津守 以は一族少皇承公改す

皇承公改を中津守と改す 西の郡山に中津守 以は一族少皇承公改す

日清和天守、紙より
 現二八十五印
 赤口秋銅鐸

奇異之鐘一、口高五尺、身又五尺、出寺、其形如、兵、其形如、
 和銅六十七印、大、口、中、有、印、像、佛、即、入、大、初、住、上、村、東、人、得、銅、鐸、於、山、田、野、地、而、敲、之、
 高、口、徑、一、尺、其、制、異、常、音、快、律、呂、初、所、可、藏、之、
 兩、平、捕、六、口、有、人、掘、地、獲、銅、鐸、一、高、八、寸、口、徑、三、寸、通、入、阿、智、王、塔、鐸、
 三、尺、口、徑、一、尺、半、於、渥、美、郡、村、山、中、獲、之、或、曰、是、阿、智、王、之、鐘、也、
 〇、上、野、山、野、田、村、山、中、獲、銅、鐸、一、高、一、尺、



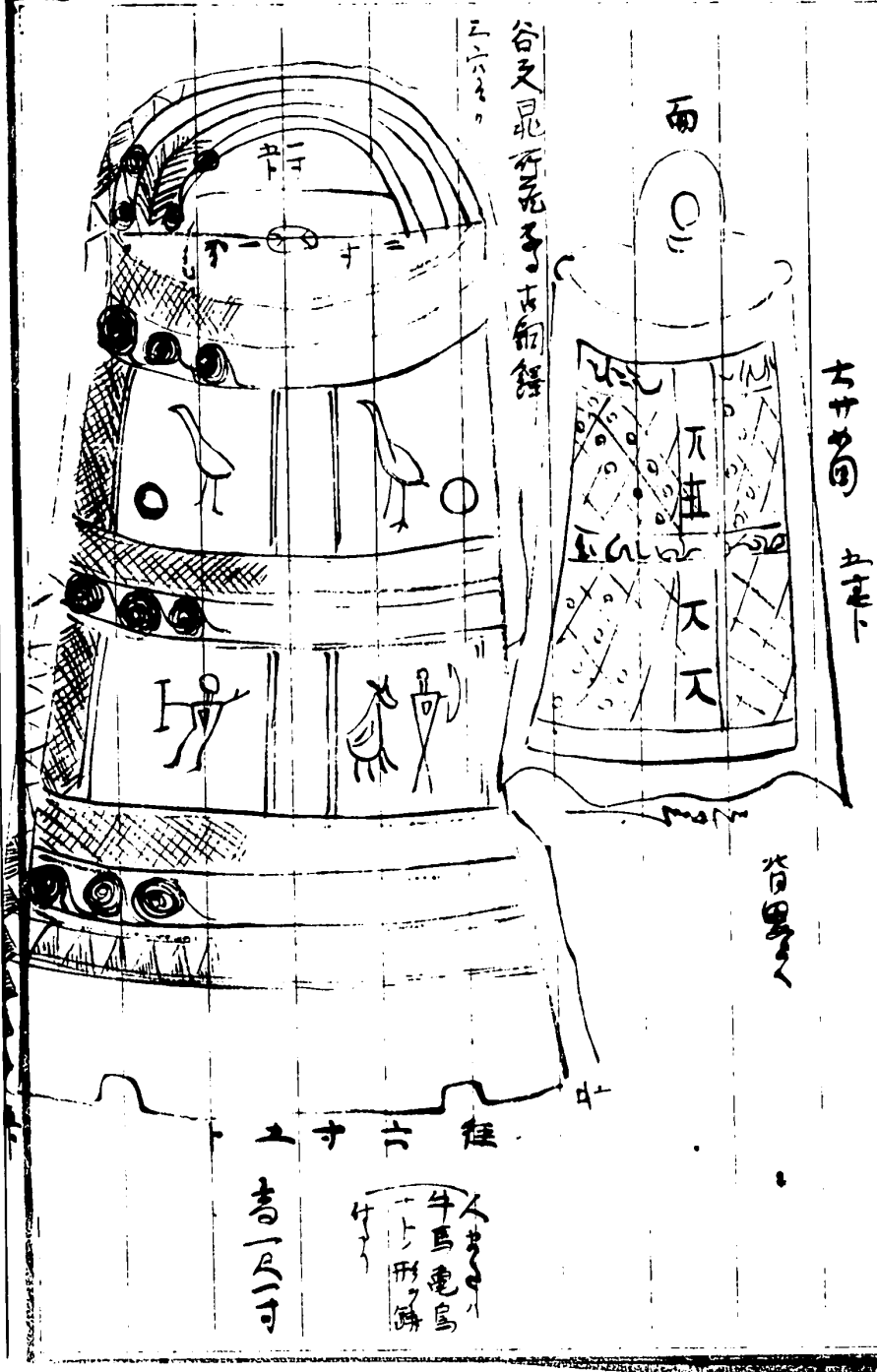
赤口秋銅鐸、口高五尺、身又五尺、出寺、其形如、兵、其形如、
 和銅六十七印、大、口、中、有、印、像、佛、即、入、大、初、住、上、村、東、人、得、銅、鐸、於、山、田、野、地、而、敲、之、

高、口、徑、一、尺、其、制、異、常、音、快、律、呂、初、所、可、藏、之、
 兩、平、捕、六、口、有、人、掘、地、獲、銅、鐸、一、高、八、寸、口、徑、三、寸、通、入、阿、智、王、塔、鐸、
 三、尺、口、徑、一、尺、半、於、渥、美、郡、村、山、中、獲、之、或、曰、是、阿、智、王、之、鐘、也、
 〇、上、野、山、野、田、村、山、中、獲、銅、鐸、一、高、一、尺、

是、也、之、鐘、一、尺、半、也、西、司、馬、執、鐸、一、尺、半、也、
 又、三、銅、鐸、昔、無、大、依、藍、之、國、又、三、宮、鐸、風、鐸、權、鐸、一、物、而、銘、大、者、也、元、征、戰、之、鐘、
 度、后、以、鐘、鐸、置、於、寺、中、
 上、野、口、鐸、一、高、一、尺、半、也、西、司、馬、執、鐸、一、尺、半、也、
 三、寺、之、鐘、其、形、如、
 〇、上、野、口、鐸、一、高、一、尺、半、也、西、司、馬、執、鐸、一、尺、半、也、

形通一ノ内ノ...
 小神曲ノ...
 俗ノ...
 相ノ...

神
 鳥



六寸六

寸一

人...

牛...

...

のり三十一日

八ノ月一ノ日

●月行松三寺

●南寺

●高橋寺 ●方丈 ●南寺 ●山田寺 ●福徳寺 ●十宗寺 ●平高寺

●平上寺 ●石井寺 ●石井寺 ●石井寺 ●石井寺 ●石井寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺 ●柳多寺

○（一） 皇太后御尊
○（二） 皇太后御尊
○（三） 皇太后御尊

○（四） 皇太后御尊
○（五） 皇太后御尊
○（六） 皇太后御尊

○（七） 皇太后御尊
○（八） 皇太后御尊
○（九） 皇太后御尊

○（十） 皇太后御尊
○（十一） 皇太后御尊
○（十二） 皇太后御尊

○（十三） 皇太后御尊
○（十四） 皇太后御尊
○（十五） 皇太后御尊

○（十六） 皇太后御尊
○（十七） 皇太后御尊
○（十八） 皇太后御尊

○（十九） 皇太后御尊
○（二十） 皇太后御尊
○（二十一） 皇太后御尊

○（二十二） 皇太后御尊
○（二十三） 皇太后御尊
○（二十四） 皇太后御尊

○（二十五） 皇太后御尊
○（二十六） 皇太后御尊
○（二十七） 皇太后御尊

○（二十八） 皇太后御尊
○（二十九） 皇太后御尊
○（三十） 皇太后御尊

○（三十一） 皇太后御尊
○（三十二） 皇太后御尊
○（三十三） 皇太后御尊

○（三十四） 皇太后御尊
○（三十五） 皇太后御尊
○（三十六） 皇太后御尊

○ 昭和三十四年二月二十日 入倉

昭和三十四年二月二十日 入倉

昭和三十四年二月二十日

昭和三十四年二月二十日

○ 昭和三十四年二月二十日

昭和三十四年二月二十日

青森県

青森県

青森県

○

青森県

○

青森県

信濃

信濃

信濃

信濃

昭和三十四年二月二十日 入倉... 昭和三十四年二月二十日 入倉... 昭和三十四年二月二十日 入倉...

昭和三十四年二月二十日 入倉... 昭和三十四年二月二十日 入倉... 昭和三十四年二月二十日 入倉...

昭和三十四年二月二十日

昭和三十四年二月二十日

